永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2026年 11-12月

「神のみかたちを回復する」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに
「神の言葉から受ける知識は、誘惑に抵抗させる」 3

朝のマナ
「神のみかたちを回復する」 4
Restoring the Image of God

力を得るための食事
「バナナフルーツケーキ」 68
レシピ

お話コーナー
「神の舟の建設者（I）」 70
聖書物語

【正丸教会】
〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】
〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス　www.4angels.jp
メール　sdarm.shomaru@gmail.com

発行日　2026 年 10 月 17 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Joe Maniscalco on page 4

Printed in Japan

神の言葉から受ける知識は、誘惑に抵抗させる

聖書全体はキリストの中にあらわれた神の栄光の啓示であり、これを受けて信じ、これに服従するとき、品性を変化させる大きな助けとなる。肉体、知能、霊的な力を強め、人間の生涯を正しい方向に向けるりっぱな刺激であり、矯正力である。

青年でもおとなでも誘惑と罪に実にたやすく陥るのは、彼らが神のみ言葉を学ばず、それについて瞑想しないからである。生活と品性に確固とした意志の力が表わされていないのは、神のみ言葉のきよい教訓をおろそかにするからである。彼らは純潔できよい思想を起させるものに心を向けること、また不純な、真実でないものから心を転ずることのために熱心な努力を払わない。マリヤのように良い方を選び、神なる教師から学ぶために、イエスの足もとにすわる者などほとんどない。心にキリストのみ言葉を学び、それを生活に実行する者が少ないのである。

聖書の真理を受け入れると、頭脳と心は向上する。神のみ言葉を正当に評価するならば、青年も年寄も誘惑に抵抗することができる正しい心と道義の力を持つにいたる。

聖書の中の尊い事柄について教え、話をすべきである。神の思想を学ぶために才能を働かせ、頭脳を敏活にはたらかせ…なさい。…

青年には神のみ言葉を頭脳と心のかてとさせ、キリストの十字架をあらゆる教育の科学とし、あらゆる教訓と研究の中心とすべきであって、それを実際生活における日常の経験に織り込ませなさい。こうして救い主は青年にとって日々の伴侶となり、友人となり、すべての思いがキリストにとらえられ、キリストに従わせられるのである。…

このようにして信仰を通し、人間は体験の知識によって神を知るようになる。神のみ言葉の真実さや約束の真理を自分でためしてみるなり、体験するなりして、神が善であることを知るのである。…

個人個人は、自分の体験から「神がまことであることを、たしかに認め」るとともに（ヨハネ 3:3）、自ら見、聞き、感じたキリストの力についてあかしをたてることができる。…「わたしは助けを必要として、それをイエスの中に見いだした。すべての欠乏がおぎなわれ、わたしの心の飢えは満たされた。聖書は、わたしにとってキリストの黙示である。キリストはわたしにとって天来の救い主であるから、わたしは彼を信じる。聖書はわたしの心にとって神の声であることを知ったから、わたしはこれを信じるのである。」（ミニストリー・オブ・ヒーリング 441-444）

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



11-12 月

11 月　自己が空にされた謙遜な器
12 月　み言葉を広めよ！

わたしたちのための祈り

「地の果なるもろもろの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ。」（イザヤ 45:22）

天におられます父なる神様、わたしたちの唯一の避けどころ、唯一の助け主、わたしたちをわたしたち自身の罪から救うことのできる唯一のお方であるお父様のところへ、わたしたちは今夕来ました。……お父様だけが心の鉄の帯を砕くことがおできになります。目の見えない者に何が罪であるかを識別させてくださいます。どの魂も天の家族の中に移される準備ができる前に、この世で持たなければならない品性を実現しなければならないことを悟るよう印象づけることのおできになる方です。ああ、お父様、お父様、民を襲う盲目、恐ろしい盲目、彼らはお父様がどのような品性を受け入れることができ、どのような品性を拒まざるを得ないかを見分けません。主よ、心と思いに働きかけてくださいますようお願いします。ああ、罪の恐ろしい罪深さをすべての者に印象づけ、お父様が罪をどのように思っておられるかをすべての者に印象づけてください。

ああ、お父様、お父様、あなたは世を非常に愛してくださって、そのひとり子を恥ずかしい死に至らせてくださいましたが、それはこのお方を通して世が永遠の命を持つことができるためでした。人類家族に、この地上で正しいことをすることにおいて自分たちを教育する特権を与えてくださいましたが、それは上なる罪のない家族と一つになり、お父様の王国で永遠に住む準備ができるためです。わたしたちは、過ぎ去りつつある機会と特権を見、心がますますかたくなになっており、ますます感覚が鈍くなっているのを見ます。ああ、むち打たれ、神の家族と一つになるために生きるどの魂のためにもそれを可能にするために十字架の苦悩を苦しまれたイエス・キリストのために、わたしたちは祈ります。―ああわたしたちは祈ります。わたしの救い主、この心のかたくなさを壊してくださいますようお祈りします。魂をとかし、屈服させてくださいますようお祈りします。（説教と講和 1 巻 378,379）

11月2日

おごりを避ける

「主を恐れるとは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪しき道と、偽りの言葉とを憎む。」（箴言 8:13）

神は今の時代に大いなる光と知識をご自分の民に与えておられる。このお方はご自分の僕がへりくだってご自分により頼む限り、彼らに力と知恵をお与えになる。彼らは変わらぬ方針のもとに、キリストの宗教を他の人々に推奨することができる。しかし自己尊重、おごり、厳しさをほしいままにすることを自分の立場を有利にすると判断する人々は、神のみ働きに疑いを投げかけ、自分たちの悪意のある疑惑や不信仰に懐疑的な言い訳をする。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1880 年 10 月 7 日）

人の性質の中には一方の極端から完全にもう一方の極端に走る傾向がある。多くの者が狂信者である。彼らは宗教にとって誤りである火のような熱心さで燃えるが、その性質は弟子の身分の真のテストである。彼らにはキリストの柔和があるのであろうか。このお方のへりくだりとかぐわしい慈悲心があるのであろうか。魂の宮は自尊心、おごり、利己心、あら捜しが空になっているであろうか。もしそうでないなら彼らは自分がどのような精神態度であるのかわかっていない。真のキリスト教は神の栄光のために多くの実を結ぶことで成り立っていることに気づいていない。（教会への証 5 巻 305,306）

もしあなたが自分自身についてあまりにも高い意見をまとめるなら、あなたは自分の働きが実際よりももっと重要であると考えることであろう。そして、おごりの瀬戸際である個人の独立を訴えることであろう。もしあなたがもう一方の極端に行き、自分自身についてあまりにも低い意見をまとめるなら、自分が非常に劣っていると感じ、あなたが善のために持つことのできる感化力を非常に制限する劣等感の印象を残すことになる。あなたはどちらの極端も避けなければならない。感情があなたを支配してはならない。状況があなたを左右してはならない。あなたは自分自身に正しい評価をし、両極端からの保護策を立証するものとなることができる。あなたはむなしい自信なしに威厳をもつことができ、自己尊重や個人的な独立を犠牲にすることなくへりくだって、相手に譲ることができる。そして、あなたの人生は、生涯のより低い歩みにおいても高い歩みにおいても他の人々に大きな感化力を及ぼすことができる。（同上 3 巻 506）

怠惰の悪

「見よ、あなたの妹ソドムの罪はこれである。すなわち彼女とその娘たちは高ぶり、食物に飽き、安泰に暮らしていたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかった。」（エゼキエル 16：49）

もしあなたの子供たちが労することに慣れていないなら、彼らはまもなく疲れてしまう。脇腹が痛い、肩に痛みが、手足がつかれたと文句を言い、あなたは同情してその働きを自分で行うという危険がある。……無活動状態は子供たちの脇腹の痛み、肩の痛みの最も大きな原因である。……

青年のほとんどが真の健全な精神と良識を示さない。彼らは心に特別な目的を持たないで、蝶のような生活を送る。この種の世俗的な者がともに集うと、あなたの耳に入るものは皆衣服または何か軽薄なことについての思慮のないわずかな意見であり、それから自分たちが非常に利口であると考える彼ら自身の意見を聞いて笑う。これが年配の人々の面前で行われ、これらの人々は自分たちの年齢への尊敬の欠如に悲しい思いをする以外にない。これらの青年は控えめと行儀のよさという感覚が全く失われているように思われる。それにもかかわらず彼らが教えられてきた方法は、それが立派な礼儀作法の極みであると彼らが考えるように導くのである。

この精神は伝染病のようであり、神の民は自分の子供たちのための交際仲間を選び、これらのむなしい俗物との交際を避けるよう教えるべきである。母親は娘たちを台所に連れてゆき、忍耐強く教育しなさい。彼女たちの性質はそのような労働にもっと適したものとなり、その筋肉は健康な状態と力を得、その瞑想はその日の終わりにはもっと健康的でもっと高められたものになる。……子供たちが働こうが働くまいが大したことではないと彼らにほのめかしてはならない。彼らの助けが必要であり、彼らの時間は価値があって、あなたは彼らの働きに頼っていると教えなさい。……

多くの罪が怠惰の結果である。活動的な手と思いは敵がほのめかすどの誘惑にも注意を払う時間はないが、怠惰な手と脳はサタンが支配する準備ができている。思いは適切なことに占められていないと適切でない事柄にこだわる。両親は怠惰が罪であることを子供たちに教えなければならない。（教会への証1巻394,395）

11月4日

他の人々に語る際の知恵を得る

「高ぶりはただ争いを生じる、勧告をきく者は知恵がある。」（箴言 13：10）

神の愛が魂を満たさなければならない。さもないと義の実は現れない。虚栄や自尊心、権力や利益にふけるのは安全ではない。あなたにいらだち、非難し、つぶやく力があり、このような方法であなたに虐待される人々があなたを止めることができないがゆえに、そうするのは、利己心の最も悪い面である。家族の輪の中で、教会の中での不一致の原因は利己心である。クリスチャンでない心は、それらが大きく拡大して見えるまでは存在せず、ほとんどこだわる事柄でもない大きな過ちを、自分は他人のうちにはっきり見ることができると考える。ある者には非常に大きく思えるこれらのささいな事柄を解決する働きを、神はご自分に従う者自身が行うようにと残しておかれる。だれも教会内で、それによって多くの者が汚される苦い根となるまで、不幸な不一致を残さないようにしよう。キリストが心のうちにおられるとき、神と人への愛によって心は非常に和らげられ抑制されるので、いらだち、あら捜し、争いはそこに存在しない。心のうちにあるキリストの宗教は、それを持っている者に主導権を求めているそれらの激情への完全な勝利を得させる。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらの〔必要な〕ものは、すべて添えて与えられるであろう」と仰せになった（マタイ 6：33）。この約束は決してなくならない。わたしたちは神の好意が与えられる条件に従うまではこのお方の好意を楽しむことはできない。そうすることによって、世が決して与えることも取り去ることもできない平安、満足、知恵がわたしたちに訪れる。教会としてあなたがたが神の祝福を豊かに受けたいのであれば、個人的にあらゆる考え、計画、働きにこのお方を初めとし、終わりとし、最高としなければならない。神への従順はクリスチャンの最初の義務である。へりくだった思いと感謝する心はわたしたちをささいな試練と現実の困難の上に高める。わたしたちが主人であるお方の奉仕に熱心さ、活発さ、用心が少なくなればなるほど、思いは自己に集中し、モグラ塚を困難の山に拡大する。無礼がもくろまれていない時でさえ自分は傷つけられているとわたしたちは感じる。（教会への証 4 巻 610，611）

代わりに愛を選ぶ

「ひそかにその隣人をそしる者をわたしは滅ぼします。高ぶる目と高慢な心の人を耐え忍ぶことはできません。」（詩編 101：5）

イエスのご臨在を退かせる、ありふれた、安っぽい、地上の事柄を思いに夢中にさせないようにしよう。教会の命はキリストから伝わっており、わたしたちが命を与える力と調和して働き、自己を見失い、最も聖なる信仰でお互いを強めるとき、わたしたちは教会を助ける。

神は、わたしたちの見解と厳密に合わないがために、わたしたちが受け入れない器をお選びになるかもしれない。彼らは、まさに完全なものとして示された方針では働かない。そして、聖霊が彼らと共に働いて下さるので、彼らを神に任せると、多くの人々は困難を提示し始め、道をふさぎ、彼らが今までになされたことのない働きをしているのを見るからといって、嘆かわしい感情をいだく。そのとき品性の批判とちょっとしたつぶやきをかき集めること、あら捜しと中傷、ささいな事件とできごとを重大な罪に拡大することが始まる。これはわたしたちが弱くなるまで教会内で続けられ、わたしたちは物事のこの狭い秩序が変わらない限り、常に弱いままである。神の御子という尊い賜物のゆえにあなたがたが神への感謝と謝意と讃美で満たされ、羨み、嫉妬、競争心を捨て去り、真の愛と一致が存在することができるように、主があなた方すべてに何をなすべきかを示してくださることを祈る。

キリストはご自分と御父が一つであられるようにご自分の弟子たちも一つとなれるようにと祈られた。この一つは何によって成り立つのであろうか。この一つは、一人びとりが同じ性質、同じ気性を持ち、本当に同じ方向で考えるからといって存在するのではない。すべての者に同じ程度の知性があるのではなく、同じ経験があるのでもない。教会内にはさまざまな賜物といろいろな経験がある。現世の事柄には取扱いの方法に非常に多様性があるが、働きの方法における、賜物の実践におけるこれらの違いが意見の相違、不調和、あつれきを造りだしてはならない。（原稿リリース 11 巻 265，266）

11月6日

へりくだる者には知恵がある

「高ぶりが来れば、恥もまた来る。へりくだる者には知恵がある。」（箴言 11：2）

わたしたちは、人々の思いが何か新しいことに絶えず広がっている時代に生きている。この願望は、正しく導かれ適切な制限内に保たれているなら推奨できる。神は創造の御業の中で思想を刺激し徹底的な研究を激励するのに十分なものをわたしたちに与えておられる。このお方はわたしたちが鋭敏でなく、好奇心が少なく、知性的でないことをお望みにならない。しかしわたしたちは、自分たちの向上心すべてにおいて、研究すべてにおいておごりは偉大なことではなくうぬぼれは知識ではないことを覚えていなければならない。人間の自尊心は力強さではなく弱さの証拠である。それは知恵ではなく愚かさを表す。過度に理由を高めるのはそれを下げることになる。人間を聖なるものと張り合う立場に置くのは軽蔑に値する。人はどのようにして神の義にかなうことができるというのであろうか。これは人類に関する最も大きな質問である。人間の議論の筋道は答えを見つけることができるであろうか。否、啓示だけがこのもっとも重要な問題を解き、人の人生の道に光を注ぐことができる。それでは、光の大いなる唯一の源、義の太陽からそれ、人間の知恵という弱々しい不確かな光に従うとはなんと愚かなことであろうか！（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1886 年 1 月 19 日）

もし若者が自然界で神の輝かしいみわざを研究し、そのみ言葉のうちに表されているようにこのお方の至上権と権威を研究したいなら、彼らは活気づけられ高められた能力をもってそのようなどの訓練からでも達するであろう。活動力はおごりと同質になることなく受け入れられるであろう。神の力の驚異を熟視することによって、思いはすべての教えの中で最も困難であるが最も有益であること、人間の知恵は無限のお方とつながっていない限り、キリストの恵みによって聖化されていないかぎり愚かなものであることを学ぶ。

ご自身が神であって、造り主と被造物、無限のお方と有限な者をつなぐ事業における神のいとし子の働きは、生涯にわたってわたしたちの思想を十分に専念させる主題である。キリストのこの働きは、失われ滅びつつあるこの世の者を救うだけでなく、罪がなく忠実な他世界の住民にそれを確認させるべきである。このお方は不従順な者が神に対して忠誠に戻るための道を開かれた。（同上 1881 年 1 月 11 日）

品性の恐るべき特徴

「高ぶりは滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ。」（箴言 16:18）

使徒〔パウロ〕は、この終わりの時代に、人々は「耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、……教師たちを寄せ集め」るであろうと宣言している（テモテ第二 4:3）。なぜなら、彼らは耳ざわりのよい話を聞きたいからである……〔このような偽りの宗教教師たち〕は、信心のかたちをもち、一見魂の益のために労しているように見えるが、その一方心では、強欲で、利己的で、安逸を愛し、自分自身の献身していない心の衝動に従っている。彼らはキリストとその教えに対立しており、キリストの柔和とへりくだった精神に欠けている。

終りの時代のための聖なる真理を担っている説教者たちは、すべてこれらのこととは反対の者でなければならない。そして、自分の実際的な信心の生活によって、偽りと真の羊飼いの間に存在する区別がはっきりとつけられなければならない。良い羊飼いであられるお方は、失われている者を探し、救うために来て下さった。このお方はご自分の働きの中で、ご自分の羊を愛するその愛を表してこられた。羊飼いの長の下で働くすべての羊飼いは、このお方の特徴をもっているのである。彼らは柔和で心のへりくだったものとなる。幼子のような信仰が魂に休息をもたらし、また愛によって働き、いつも他の人々のために関心をもっている。もしキリストの御霊が彼らのうちに宿っているなら、彼らはキリストに似た者となり、キリストの働きをする。キリストの牧師だと公言する多くの者は、自分たちの主人を誤解してきた。彼らはキリストに仕えていると主張するが、自分たちが呼び集められているのが、サタンの旗の下であることに気がついていない。彼らは世的には賢く、争いと見せびらかしを渇望し、偉大な仕事をしていると見せかけようとする。しかし、神は彼らに用はない。行動を生じさせた動機が、その働きに性質を与えるのである。人は欠陥を見分けられないかもしれないが、神はそれに注目なさる。

真理の手紙によって、信仰を固くとらえ、最終的に救われる魂が確信するかもしれない。しかし、彼らに真理を提示した利己的な説教者は、彼らの改心のために、神のみ前に功績を得ることはない。このお方はシオンの城壁の見張り人だと公言していながら、彼が不忠実であったことを裁かれる。心の誇りは品性の恐るべき特徴である。「誇る心は倒れにさきだつ」（箴言 16:18）。これは、家族においても、教会においても、国家においても真理である。（教会への証 4 巻 376, 377）

11月8日

誇る者に目がくらまない

「主をおのが頼みとする人、高ぶる者にたよら……ない人はさいわいである。」（詩篇 40:4）

主の民だと公言する人々から、世の知恵があまりにも高く評価され、上よりの知恵があまりにも求められていない。人々はクリスチャンの教理の知識をもっているかもしれないが、なおクリスチャン経験はほとんど理解していない。多くの人々は世の事柄には、鋭く、利発で、機敏であるが、その一方で彼らは神の奉仕においてはほとんど関心も機転も精力も表さない。彼らは、サタンの考案を識別するために見張ったり、どのようにして敵に作戦に打ち勝つかを研究したりすることに、自分たちの鋭さと利口さを働かせない。彼らは賢明な計画を立て、神のみ事業を前進させるべく熱心で計画的な努力を払うために、自分たちのすべての力を結集しない。世の一時的なことに働かされる知恵は、めったに霊的かつ永遠の事柄には捧げられない。こうして能力のある人々は、自分たちが霊的であるよりは肉的であるという証拠を示している。

すべての人は、その職業が何であろうと、神のみ事業を自分の第一の関心事とすべきである。彼は自分のタラントを主のみ働きを前進させるために働かせるばかりではなく、この目的のために自分の能力を培うべきである。多くの人々は、自分が世において成功する働き人となるため、商売や職業を身につけるのに、数か月また数年を捧げる。それでいながら、自らを主のぶどう畑において成功する働き人となすこれらのタラントを培うためには、特別な努力を払わない。彼は、自分の力をゆがめ、自分のタラントを乱用する。彼は自分の天の主人に対する無礼を示してきた。これは神の民だと公言する者の大きな罪である。彼らは自らに仕え、また世に仕える。彼らは如才なく、成功した資産家だという名をもっているかもしれないが、神がご自分の奉仕のために自分に与えて下さったタラントを用いることによって増し加えることを怠る。世俗の機転は、働かせることによってますます強くなり、霊性は、不活動によってますます弱くなる。

今はこれらのタラントが、神のみ事業において用いられるならば、このお方の王国を築きあげるのに、大いなる効果をもたらす時である……

わたしたちは永遠のために築いている。今、わたしたちがどのように建てるか注意する重要性は倍増している。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 1 月 1 日）

11月9日

イエス・キリストの模範

「わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えでするのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。」（ヨハネ5:30）

キリストの聖なる生涯と品性は、忠実な模範である。ご自分の天父への信頼は、限りがなかった。このお方の従順と服従は、無条件で完全であった。このお方は仕えられるためではなく、他の人々に仕えるために来られた。このお方はご自身の意志を行うためではなく、ご自分を遣わされた方の意志を行うために来られた。万事において、このお方は正しい裁きを行うお方にご自身を服従させられた。世の救い主の唇からは、「わたしは、自分からは何事もすることができない」という言葉が聞かれた（ヨハネ5:30）。

このお方は貧しくなられ、おのれをむなしくされた。このお方は飢えて、しばしば渇いておられ、そして多くの場合、ご自分の働きにおいて疲れておられた。しかし、このお方にはご自分の頭を横たえる場所がなかった。冷たく湿っぽい夜陰がこのお方のまわりを囲むとき、地面がしばしばこのお方の寝床であった。それでいてなお、このお方はご自分を 憎む人々を祝福された。なんというご生涯であろう！なんという経験であろう！キリストに従うと公言するわたしたちは、わたしたちの主がなさったように、つぶやくことなく、快活に、欠乏と苦しみに耐えることができるであろうか。わたしたちは、杯を飲み、バプテスマを受けることができるであろうか。もしそうであれば、わたしたちはこのお方の天の王国でこのお方の栄光に共にあずかることができる。もしできなければ、このお方にあずかるものは何もない。（教会への証3巻107）

人々は、人間の教師から与えられる可能な限りすべての知識を得ることができる。しかし、なお神が彼らに要求なさるさらに大きな知恵がある。モーセのように、彼らは柔和と心のへりくだりと自己に信頼しないことを学ばなければならない。わたしたちの救い主ご自身は、人性のためのテストを耐えて、ご自分から何もすることができない、とお認めになった。わたしたちもまた、人性だけでは、何の力もないことを学ばなければならない。人は神性にあずかるものとなって初めて有能になる。……

自分自身を区別したいというすべての利己的な願いをわきへおこう。人間からの提案をすべて、聖霊の導きに信頼して、神の許へ持っていきなさい。すべてのきよくない野心は取り除かれるべきである。さもなければ、主は、「わたしは愚かな者の根を張るのを見た、しかしわたしは、にわかにそのすみかをのろった」と仰せになる（ヨブ5:3）。（同上346–348）

11月10日

パウロの模範

「わたしは日々死んでいるのである。」（コリント第一 15:31）

主は、わたしたちがご自分のみ旨に従順であること、ご自分の御霊によって征服され、ご自分の奉仕のために聖化されることを要求なさる。利己心は捨て去られなければならない。そして、わたしたちはキリストが勝利されたように、自分たちの品性の一つ一つの欠点に、勝利しなければならない。この働きを成し遂げるために、わたしたちは日々自己に死ななければならない。（教会への証 4 巻 66）

自己に対する勝利のため、聖潔と天のための苦闘は、一生涯の苦闘である。絶え間ない努力と継続的な活動なくして、聖なる生活において前進すること、勝利者の冠を得ることはできない。

人間がより高い状態から堕落したという最も強力な証拠は、戻るためにこれほどまでの代価がかかるという事実である。戻るための道は、わずかずつ、毎時間、激しい戦いによってのみ、得ることができる。意志の一瞬の行為によって、人は自らの身を悪の力のうちにおくかもしれないが、これらのかせを断ち切り、より高く、より聖なる生活を得るためには、意志の一瞬の行為以上が要求される。目的が形成され、働きは始まるかもしれない。しかし、その達成には、骨折り、時間、辛抱、忍耐、そして犠牲が要求される。

数え切れないほどの誘惑にからみつかれても、わたしたちは断固として抵抗しなければならない。さもなければ征服されてしまう。わたしたちは生涯の終りになって、働きが終わっていなければ、それは永遠の損失となる。

パウロの聖化は、自己との継続的な戦いの結果であった。彼は、「わたしは日々死んでいる」と言った（コリント第一 15:31）。彼の意志と彼の願いは、毎日義務と神のみ旨に対して戦った。傾向に従う代わりに、彼は、どんなに自分自身の性質にとって十字架につけるようなものであっても、神のみ旨を行った。

神はご自分の民を一歩一歩導かれる。クリスチャン生涯は、戦いと進軍である。この戦闘において、放免はない。努力は絶えざる辛抱強いものでなくてはならない。わたしたちがサタンの誘惑に対する勝利を維持するのは、やむことのない努力によってである。クリスチャンの高潔さを、抵抗できない精力をもって求め、断固とした動かない目的をもって維持しなくてはならない。

だれも自分自身のための断固とした辛抱強い努力なくして、上に向かって生まれることはない。すべての人が自分自身でこの戦いにたずさわらなければならない。個々に、わたしたちはこの苦闘の問題に対して責任がある。（教会への証 8 巻 313, 314）

11月11日

知恵の教訓

「主を恐れることは知恵の教訓である、謙遜は、栄誉に先だつ。」（箴言 15:33）

この時代に、「偽りの『知識』（誤って科学と呼ばれている：英訳）」である人間の空論のまぶしい光にくらまされている人々が多くいる。彼らは網を見分けることができず、目隠しされているかのように、やすやすとその中へ歩いていく。神は人間の知力が造り主からの賜物として保たれ、真理と義の奉仕に用いられるよう計画された。しかし、それが偶像化され、偽りの宗教の奉仕に用いるためにサタンの宮に捧げられるとき、知性は無知よりも大きな害をなす。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰ 1887 年 2 月 1 日）

自己をわきへ置き、聖霊が自分たちの心に働きかける余地をつくり、主が課される必要な訓練につぶやいたり、途中でくじけたりせずに、完全に神の奉仕のために聖化された生活を送る人の有用性には限りがない。もし彼らが主の譴責にくじけたり、心をかたくなに頑固になったりしないならば、主は、老若共に、時々に、日々に教えて下さる。このお方はご自分の救いを人の子らに表したいと切望しておられる。そしてもしこのお方の選ばれた民が障害物を取り除くならば、このお方は救いの水を人間の水路を通して豊かな流れのうちに注ぎ出して下さる。

人間の学校で自分たちの教育を完成することによって、神の高められた働きのための有能さを求めている多くの人々は、自分たちが主の教えようとなさるもっと重要な教訓を学ぶことに失敗したことに気づくようになる。自らを聖霊の印象の下に従わせることを怠ることによって、また神のすべてのご要求に対する従順のうちに生活しないことによって、彼らの霊的な有能さは弱くなる。彼らは主のために成功する働きをなすために彼らが持っていた能力を失ってしまう。キリストの学校を欠席することによって、彼らは教師であるお方のみ声の響きを忘れてしまったので、このお方は彼らの道を導くことがおできにならないのである。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 346）

敬神と宗教経験は、まさに真の教育の基礎の根底にある。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育 51）

11月12日

救いのために低くされ、テストされる

「あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。」（申命記8:2）

神はご自分の民を、一歩一歩導かれる。このお方は心のうちに何があるかをあらわすように意図されたさまざまな点に彼らを導かれる。ある者は、一つの点において耐えるが、次に落ちてしまう。一つ進むごとに、心は少しずつ厳密にテストされ、試される。神の民だと公言する人々は、もし自分たちの心がこの厳しい働きに反対しているのがわかったなら、自分たちが主の口から吐き出されたくなければ、勝利するためになすべき働きがあることを確信すべきである。御使は次のように言った、「神はご自分の民の一人びとりをテストし、試すために、ご自分の働きを少しずつ厳密に進めていかれる」。ある者は、一つの点においては喜んで受け入れるが、神が彼らを次の試金石となる点に導かれると、それにひるんで、しり込みする。なぜなら、それが直接、大事にしている何かの偶像を打つのがわかるからである。ここに彼らは自分たちの心の中で、何がイエスを締め出しているかを知る機会がある。彼らは何かを真理よりも高く評価している。そして彼らの心はイエスを受け入れる準備ができていない。個々人はある一定期間、彼らがすすんで自分の偶像を犠牲にし、真の証人の勧告に注意を払うかどうかを見るためにテストされ、試される。もしだれでも、真理に従うことによって精錬していただき、自分たちの利己心、誇り、悪感情に打ち勝とうとしないなら、神の御使たちは次のように告訴する。「彼らは偶像に結びつらなった。そのなすにまかせよ」、そして自分たちの罪深い特徴を征服しないこれらの人々をそのまま悪天使たちの支配にまかせて、自分たちの働きを続けていく。すべての点に達し、すべてのテストに耐え、どのような代価を払っても勝利する人々は、真の証人の勧告に注意を払ってきた。そして、彼らは後の雨を受け、こうして昇天にふさわしいものとされるのである。

神はこの世においてご自分の民を試される。ここは、神のみ前に出るのにふさわしくされるための場所である。ここ、すなわちこの世の、この最後の時代において、人々はどの力が自分たちの心に影響を与え、その行動を支配しているかを示すようになる。もしそれが神聖な真理の力であれば、それは良い働きへ導く。それは受けるものを高め、彼をその神聖な主のように、高尚な心をもった寛容な者とするのである。（教会への証 1 巻 187,188）

11月13日

すべての良きものは満たされる

「謙遜と主を恐れることとの報いは、富と誉と命とである。」（箴言 22:4）

わたしたちはイエスを日々に、時々に信頼する必要がある。このお方はわたしたちの日が続くと共にわたしたちの力も続くと約束された。このお方の恵みによって、わたしたちは現在のすべての重荷を負い、その義務を果たすことができる。多くの人々は将来の問題を案じて押しつぶされている。彼らは絶えず明日の重荷を今日に持ち込もうとしている。しかし、イエスは今日一日のためだけに恵みを約束しておられる。このお方は明日の思いわずらいや問題で自ら重荷を負うことがないようにと命じておられる。

自己称揚は、不信と同様に、多くの祝福をわたしたちから奪う。主はもしわたしたちがこのお方の前に自分たちの心をへりくだらせ、このお方の救いを見るときに、人ではなく、このお方に栄光を帰して、へりくだりを維持するならば、わたしたちのために働いて下さる。わたしたちは主がわたしたちを祝福して下さったときに、あまりにもたやすく自己を高めるために、自分自身から多くの祝福を奪っている。

わたしたちがキリストと密接に結合するとき、わたしたちの自信は消失する。わたしたちの自己尊重の言葉は語られずにすむ。わたしたちは自らを力強い神のみ手の下にへりくだらせる。わたしたちは祈り、信じ、親切で真実な優しい心になり、キリストがわたしたちを愛されたように互いに愛するようになる。わたしたちが真理に生きるとき、不親切な批判は死滅する。

キリスト教は、良い決心をすること、発作的で長続きのしない経験をもつこと以上を意味する。わたしたちの思想はキリストにとりこにされなければならない。着実に辛抱強くキリストのような思想が培われなければならない。熱心な祈りがなくてはならない。祈りのうちに神と格闘することによって、敵の手を弱めなさい。あなたの必要なものをキリストの名によって祈り、それから、このお方の力のうちに、自らの行動をそれに調和したものとすることによって、自分の祈りに応えなさい。あなたが自己否定のうちにキリストに従わない限り、あなたの祈りは神のみ座に届かないことを覚えなさい。キリストは自己否定の道をあなたに指し示し、次のように言われる、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」（マタイ 16:24）。このお方はご自分の要求を行おうする人々の能力のために、豊かな備えをしてこられた。（パシフィック・ユニオン・レコーダー 1902 年 6 月 5 日）

11月14日

かつて戦われた中で最大の戦い

「謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」（ペテロ第一 5:5）

誇りとこの世への愛着は、霊性と恵みにおける成長にとって非常に大きな妨げとなるわなである。

この世はクリスチャンの天国ではなく、単なる神の作業場であって、ここでわたしたちは聖なる天での罪のない御使たちと一つになるのにふさわしくされる。わたしたちは絶えず思いを、高尚な無私の思想へと訓練しているべきである。（教会への証 2 巻 187）

S兄弟は、多くのことにおいて弱い。もし神が彼に隣人の正体を暴き、非難するように、また兄弟を譴責し、矯正するように、あるいは自分の敵たちに抵抗し、滅ぼすように要求なさるのであれば、それは彼にとって比較的、自然でたやすい働きであろう。しかし、自己に対する戦い、自分自身の心の願望と愛情を征服し、心の秘かな動機を探りだして、支配することは、もっと困難な戦いである。彼はこのような戦いにおいて忠実であることに、どれほど気乗りがしないことであろう！

自己に対する戦いは、かつて戦われた中で最大の闘いである。神のみ旨にすべてを明け渡し、自己を降伏させること、そして清く、平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ちた愛を持ちつつ、謙遜をまとうことは、簡単に達成できることではない。それでいながら、ここで完全な勝利者となることは、彼の特権であり、また彼の義務である。魂は知識と真の聖潔において新たにされることができる前に、神に服さなければならない。（同上 3 巻 106,107）

心はよろずのものより偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。宗教を公言する人々は、自分が果たして信仰のうちにいるかどうかを調べるために、自分自身を厳密に吟味しようとしない。そして多くの人々が、偽りの希望により頼んでいることは、恐るべき事実である。ある人々は何年も前の古い経験により頼んでいる。しかし、この心を探る時に引きもどされ、すべての人が日ごとの経験をもつべきときになると、彼には語ることが何もない。彼らは真理を公言することが自分たちを救うと考えているかのようである。彼らが神の憎まれるこれらの罪を征服するとき、イエスは入って来て彼らと食を共にし、彼らもこのお方と食を共にする。彼らはそのとき、イエスから神聖な力を得て、このお方のうちに成長するようになる。（同上 1 巻 188）

わたしたちのリバイバルの必要

「主よ、わたしはあなたのことを聞きました。主よ、わたしはあなたのみわざを見て恐れます。この年のうちにこれを新たにし、この年のうちにこれを知らせてください。怒る時にもあわれみを思いおこしてください。」（ハバクク 3:2）

わたしたちの間における真の信心のリバイバルが、わたしたちのすべての必要の中でもっとも大きく、最も切迫したものである。これを求めることがわたしたちの第一の働きとなるべきである。主の祝福を得るための熱心な努力がなければならない。これは神がわたしたちにご自分の祝福を注ぎたくないからではなく、わたしたちがそれを受ける準備ができていないからである。わたしたちの天父は、地上の親が自分の子供たちに良い贈り物をしたいと思う以上に、ご自分に求める人々に聖霊を与えたいと思っておられる。しかし、告白と、謙遜と、悔い改めと、熱心な祈りによって、神がご自分の祝福をわたしたちに与えると約束された条件を満たすのは、わたしたちの働きである。リバイバルは祈りに対する答えとしてのみ期待する必要がある。民が神の聖霊にあまりにも欠乏している間は、み言葉の説教を感謝することはできない。しかし、聖霊の力が心に触れるとき、与えられた説教は効果を及ぼさずにはいない。神のみ言葉の教えによって導かれ、聖霊の現れを伴って、健全な思慮分別を働かせて、わたしたちの集会に出席する人々は、尊い経験を得て、家に戻るとき、健全な感化力を発揮する準備ができるのである。

年老いた旗手たちは、祈りにおいて神とどのように格闘し、聖霊の注ぎを享受するということがどういうことかを知っていた。しかし、これらの人々は行動の舞台から過ぎて行っている。そしてだれが彼らの場所を埋めるために、登場するであろうか。起こりつつある世代はどうであろうか。彼らは神に改心しているであろうか。わたしたちは天の聖所で進められている働きに対して目覚めているであろうか。あるいは、わたしたちが立ち上がる前に、何か強制力が教会に及ぶのを待っているのであろうか。……

わたしたちは個々に働きに入らなければならない。もっと多く祈り、語ることはもっと少なくなければならない。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 121, 122）

不平とあら探しをやめ、これまでこのように無駄にするよりもさらに悪い過ごし方をしてきた時間を、主の前からの慰めの時を求めて生きた信仰の祈りのうちに過ごそうではないか。わたしたちはひとりの人のように、一致して、神の民の魂に神の恵みを下さるように、そしてこの年のうちにこのお方の働きをよみがえらせて下さるように呼び求めようではないか。（福音宣伝者 224, 225.〔1892 版〕）

11月16日

引き上げられるために低くされる

「人が低くされるとき、あなたはこう仰せられる、引き上げるであろう。そして彼はへりくだる者を救われる。」（ヨブ 22:29 英語訳）

幸福になるために、わたしたちは十字架の下で自己否定を学ばなければならない。（ﾊﾟｳﾛの生涯からのｽｹｯﾁ 284）

ときには自分たちの無価値さを深く自覚して、魂を突き抜けるような恐怖感を与えることがあるが、それは神がわたしたちに対して変わられたり、わたしたちが神に対して変わったりした証拠ではない。ある種の感情の激しさを保つために思いを引き締めようと努力すべきではない。わたしたちは昨日感じた平安や喜びを今日は感じないかもしれないが、信仰によってキリストのみ手をつかみ、光のうちにあるのとまったく同様に闇のうちにあってもこのお方に信頼すべきである。

サタンは次のようにささやくかもしれない、「あなたはあまりにもひどい罪人であり、キリストもお救いになれない」と。あなたは自分が実際に罪深く、無価値であることを認める一方で、誘惑者に対して次の叫びを持って応じることができる、「贖罪の力によって、わたしはキリストをわたしの救い主として主張する。わたしは自分自身の功績ではなく、わたしを清めて下さるイエスの尊い血潮により頼む。この瞬間、わたしの魂はキリストにすがりつく」と。クリスチャン生活は、継続的な生きた信仰の生涯でなければならない。屈しない信頼、キリストへの固い信用が魂に平安と確証をもたらす。（清められた生涯 90）

もしわたしたちが自分自身の心を吟味し、自分たちの罪を捨て去り、自分たちの悪への傾向を正すことに集中しているならば、わたしたちの魂が虚無へと引き上げられることはない。わたしたちは自分を信頼せず、自分たちの力は神からであるという自覚を絶えず持つのである。

わたしたちは外からよりも中からの方をはるかにもっと恐れるべきである。力と成功を阻むものは、世からよりも教会自体からの方がはるかに大きい。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻 122）

わたしたちはへりくだった心で主を求めることを怠るために、多くの豊かな祝福を失う。わたしたちが誠心をもってこのお方のみ許へ行き、わたしたちの欠点を明らかにして下さることを求めるとき、このお方はご自分のみ言葉の鏡に映して、わたしたち自身の真の姿を示して下さる。そのとき、自分自身を神がご覧になるように見てから、自分たちがどのようなありさまの人であったかを忘れて立ち去るようなことをしないようにしよう。欠点となっている自分たちの品性の特徴を厳しく調べ、それらを神のみ言葉のうちに提示されている型のようにして下さる恵みを求めようではないか。（ﾚｲｸ・ﾕﾆｵﾝ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1909 年 11 月 3 日）

11月17日

わたしたちの心を整える

「人の高ぶりはその人を低くし、心にへりくだる者は誉を得る。」（箴言 29:23）

主のみ前におけるへりくだりがあるべきである。神のイスラエルは衣ではなく、心を裂くべきである。幼子のような単純さは、まれである。人の賞賛が神のご不興よりも重んじられている。親愛なる兄弟姉妹がたよ、あなたの心を整えなさい。もろい命のひもが断たれて、保護されることなく、さばきの準備ができないまま墓に下ることのないように。あなたが神とやわらぎをなし、自らを世から引き離さないかぎり、あなたの心はますますかたくなになり、また偽の支柱、すなわち想像上の準備により頼むようになって、基盤のしっかりした希望を得るには遅すぎるときになって自分の過ちを見出すことになる。

斧が木の根元におかれなければならない。誇りと世俗は教会の中で容認されるべきではない。神をご自分の民から引き離したのはこれらのものである。彼らは教会のただ中に存在する誇りと世への一致に対して今まで眠っている。誇り、貪欲、利己心、世への愛着は絶えず増し加わっている。外見は心のあらわれである。心が真理に影響されるとき、世に対する死がある。そして世に対して死んだ者は、不信者の笑いやあざけりや軽蔑によって動かされることはない。彼らは世から分離して、自分たちのご主人であるお方に似た者となりたいと切なる願いを感じる。彼らは世の流行や習慣をまねるようなことをしない。彼らの前にはいつも神に栄光を帰し、不死の嗣業を得るという高尚な目的がある。そしてこれに比べれば、地上の性質をもつすべてのものは、無価値なものとして沈んでしまう。

あまりにも多くの人々が聖書をなおざりにする。彼らは聖書をなすべきほどに自分たちの研究課題、また生活の規則としない。特に青年たちはこの怠慢の罪が深い。彼らのうち多くは、他の本ならほとんど何でも読む時間を十分に見出すが、永遠の命を指し示す尊い本、終わりの日に彼らを裁く重要な本は、まったくと言ってよいほど研究しない。……すべての人が神の民の前にある激しい戦いにおいて自分自身の魂を強めるために、自分たちの希望の理由を理解しなければならない。これなしには、わたしたちは足りないことがあらわれ、堅固さと決意とをもつことができない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 9 月 9 日）

11月18日

再び生かされた霊と心

「あなたの民が、あなたによって喜びを得るため、われらを再び生かされないのですか。」（詩篇 85:6）

主の律法を憎む人々が、真理を受けて真理に生きるための道徳的な勇気をもっている人々に対してわめきちらし、自分たちののろいを注ぎ出すがままにさせておきなさい。主がわたしたちの力であられる。わたしたちにとって、自己を打ち立てるのではなく、わたしたちのうちに、またわたしたちによって、またわたしたちを通してみ旨をなしていただくのが安全である。主が再び生かして下さる、悔いてへりくだる霊を失わないようにしなさい。（牧師への証 250）

わたしたちの世には、わたしたちが思うよりも神の王国に近い人々が大勢いる。この暗い罪の世において、主は多くの尊い宝石を持っておられ、彼らに主はご自分の使命者たちを導かれる。神はご自分の信じる者たちをご自分の道具としてお用いになり、彼らを通して命のパンに飢えている魂に奉仕をなさる。神の祭壇からの炭火に触れられたくちびるよりこぼれる希望と励ましの言葉は、疲れて悩む人々を再び生かし、慰める。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1904 年 5 月 12 日）

自己を視野から取り除こうではないか。キリストだけが高められるべきである。「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し」た方に、すべての目が向けられ、すべての心から讃美がのぼるように（黙示録 1:5）。

主を恐れる者の生活は、悲しい、いんうつな生活ではない。キリストのない生活こそ、顔つきを憂うつにし、人生を嘆きと悲しみに満ちた生涯とするのである。うぬぼれと自己主義にみちている者は、キリストとの生きた個人的交わりを持つ必要を感じない。まだ岩なるキリストの上に落ちていない心は自分の完全さを誇る。人びとは、威厳の保てる宗教を欲する。彼らは、自分たちのさまざまな性質を持ったまま、ゆうゆうと歩ける広い道を望む。彼らの利己的で人びとにもてはやされ、ほめられることを好む気持ちが、救い主を心からしめ出すことになり、キリストのないところは、いんうつと悲哀の場所となってしまう。キリストが魂の中に住んでくださるならば、それは喜びの泉となる。神を受け入れる者はすべて、神のことばの主題が喜びであることをさとるのである。（キリストの実物教訓 142,143）

11月19日

わたしたちの焦点を合わせる

「あなたの目は、まっすぐに正面を見、あなたのまぶたはあなたの前を、まっすぐに見よ。あなたの足の道に気をつけよ、そうすれば、あなたのすべての道は安全である。右にも左にも迷い出てはならない、あなたの足を悪から離れさせよ。」（箴言 4:25–27）

すべての者は、「わたしは救われるために何をすべきですか」と問う必要がある。神はへりくだった、悔いた心、すなわち神のみ言葉に震える心を要求しておられる。わたしたちは、唯一神聖な祭壇からのみ、天のたいまつ、すなわち受け入れるならば、自分たちの無能さに対する十分な見解を与え、キリストの尊厳と栄光をわたしたちにあらわすたいまつを受けることができる。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰ 1896 年 7 月 20 日）

神が大いなる光をもって祝福してこられた男女は、自分の魂の敵のへつらうような偽りによって、自ら迷い出ることを許してしまうのであろうか。神の戒めへの不従順を伴うときに、彼らは名声、世的な誉れや繁栄を求めるのであろうか。彼らは自分たちの永遠の利益をゆずり渡し、自分たちの長子権を一杯のあつものの で売り渡してしまうのであろうか。わたしたちは目覚めて、わたしたちを肉の安全というゆりかごの中で寝かしつけてしまう、世の危険な昏睡状態を振り払わないのであろうか。神の戒めを踏みにじる人々のあざけりにおびえるあなたがたは、誘惑に屈して臆病者になり、あなたの稀有（けう）な信仰を笑う隣人の非難に耐えるよりも、神の恩寵を失うのであろうか。神の御霊はいつまでも人と争われることはない。招きを軽んじる者たちは、神が自分たちの救いのために送られる最後の憐れみのメッセージをあざけり、祝福の晩餐を味わうことはできない。憐れみ深い救い主イエスは、わたしたちの世に「さあ、おいでください。もう準備ができましたから」という招待状をすべての人に送ってこられた（ルカ 14:17）。あなたは招待を拒んだユダヤ人の真似をするのであろうか。わたしたちに招きは与えられている。そして主はあなたがたがご自分の言葉に恐れおののき、それによってご自分があなたの心のうちに望みと信仰と聖なる信頼をともすことができるようにと望んでおられる。このお方はあなたにまず神の国と神の義を求めよ、とお命じになり、そのとき、必要なものはすべて添えて与えられると約束しておられる。このお方はあなたの前にパラダイスの栄光を明らかにして下さる。そこで問われるのは、あなたがこのお方の招きを受け入れるかどうか、ということである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 11 月 5 日）

11月20日

主は聞かれる

「主は……苦しむ者の叫びをお忘れにならない」（詩篇 9:12）

信仰のうちに捧げられる一つ一つの祈りは、嘆願者を疑いと人間の感情に超越させる。祈りは闇の権力との戦いを再び始め、忍耐強く試練に耐え、キリストの良き兵士として困難に耐える力を与える。

あなたが自分の疑いや恐れに相談している間、あるいは自分が信仰をもつ前にはっきりと見えないことを全部解決しようとしている間は、あなたの困惑はただ増し加わり、深まっていくばかりである。もしあなたが、ありのままの無力さと依存とを感じて、神のみ許へ行き、へりくだった信頼の祈りのうちに、この無限の知恵をもち、被造物のうちにすべてをご覧になり、ご自分のみ旨とみ言葉によってすべてのものを統べ治められるお方に、あなたの必要を知らせるならば、このお方はあなたの叫びに応じることがおできになるし、そうしてくださるのであり、またあなたの心の中とあなたの周り一面を光が照らすようにして下さる。なぜなら、真心からの祈りを通して、あなたの魂は無限の方の思いとつながりを持つようになるからである。自分の贖い主のみ顔があなたの方へ憐れみと愛のうちに寄せられているとき、目立つような証拠はないかもしれないが、それでもその通りなのである。このお方の目に見える手の感触はないかもしれないが、しかし、このお方のみ手は愛と憐れみ深い優しさのうちにあなたの上におかれている。……

あなたは絶えず見張っている必要がある。さもないとサタンが自分の狡猾さを通してあなたを欺き、あなたの思いを堕落させて、矛盾とはなはだしい闇へと導くことになる。あなたの見張りは、神への謙遜な依存の精神によって特徴づけられているべきである。それは誇り高い、自己依存の精神ではなく、自分自身の弱さに対する深い自覚と、神の約束を信じる幼子のような信頼をもってなされるべきである。（福音宣伝者 320,321）

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」（ピリピ 2:12）。あなたが間違いを犯すことがないように、また主のみ名を汚すことがないように、恐れなさい。このお方には救う力があることを信じて、このお方に叫び求めなさい。これがわたしたちに欠乏している謙遜である。人間の目の前に自らを並べ立てて、義に対する称賛を勝ち取ろうとする、高ぶった謙遜ではない。わたしたちは医者であり回復者であられるお方を必要としている。そしてわたしたちがこのお方の恵みを嘆願しながら、キリストの許へ来るとき、慰め主は「わたしの平安をあなたがたに与える」というこのみ言葉をわたしたちの魂の中に吹き込んで下さるのである（ヨハネ 14:27）。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰ 1892 年 6 月 1 日）

永遠の最善を目指して

「へりくだって貧しい人々と共におるのは、高ぶる者と共にいて、獲物を分けるにまさる。」（箴言 16:19）

すべての教派の伝道において、あまりにも自己が多く、あまりにもイエスが少ない。主は、ご自分のメッセージを宣布するのに、謙遜な人をお用いになる。キリストが王の偉大さのうちに、地上の偉人たちを伴う壮麗さをもって来られたならば、多くの人々がキリストを受け入れたことであろう。しかし、ナザレのイエスは、外見の栄光の誇示をもって感覚をくらますことなく、またこれを彼らの敬神の土台とはなさらなかった。このお方はへりくだった人間として、人類の贖い主と同時に、教師また模範者となるために来られたのであった。このお方が壮麗さを奨励されたなら、またこのお方が地上の偉人たちの随行団を従えてきたら、どのようにして謙遜をお教えになることができたであろう。どのようにして、山上の垂訓でなされたように燃えるような真理を提示することがおできになったことであろう。このお方の模範は、このお方がご自分に従うすべての者に模倣することを望まれる模範である。もしこのお方が高められ、地上に王として住まわれたなら、人生における身分の低い者たちの希望はどこにあったことであろう。イエスは世の人の必要を、彼ら自身よりもよく知っておられた。このお方は天の装いをまとった御使として来られたのではなく、人として来られたのであった。しかしなお、ご自分の人性に、生来固有の力と、人がこのお方を愛しながらも畏敬を覚える偉大さとを結合しておられた。このような麗しさと、このような気取らない装いをもっておられながら、このお方は人々の間を、天来の王の持つ尊厳さと力をもって行動されたのであった。（医事伝道 22, 23）

あなたは、柔和で心のへりくだったキリストから学ぶために招かれている。なんと尊い教訓よ！もしよく学ぶならば、それは人生全体を変えるのである。（教会への証 2 巻 188）

わたしたちが、キリストが働かれたように働くためには、自己が十字架につけられなければならない。それは痛みを伴う死である。しかし、それは命、すなわち魂にとって命である。（教会への証 6 巻 125）

わたしたちの唯一の安全は、一瞬一瞬を神の恵みによって保護されていること、そしてわたしたちが悪を善と言い、善を悪と呼ぶことのないように、自分自身の霊的な視力を取り除かないことにある。……

わたしたちの努力、自己否定、辛抱は、わたしたちが追い求めている目的の無限の価値に見合うものでなければならない。（福音宣伝者 205[1892 版]）

11月22日

悔悟をもって来る

「この所と、ここに住む者を責める神の言葉を、あなたが聞いた時、心に悔い、神の前に身をひくくし、わたしの前にへりくだり、衣を裂いて、わたしの前に泣いたので、わたしもまた、あなたに聞いた、と主は言われる。」（歴代志下 34:27）

一人びとり個々の教会員が岩なるキリスト・イエスの上に建てる必要がある。すべての人の霊的な基礎をねじり、極限まで試すことになる嵐が起こりつつある。であるから、砂の寝床を避けなさい。岩を探し求めなさい。深く掘りなさい。あなたの基礎を確かなものにしなさい。建てなさい、ああ、永遠のために建てなさい！涙をもって、心からの祈りをもって建てなさい。（教会への証 5 巻 129, 130）

イエスはそれほどの価を払ってあがなった者が、敵の誘惑にもてあそばれるのをお望みにならない。彼はわたしたちが負けて滅びるのをお好みにならない。ししの穴でライオンの口をふさぎ、忠実な証人と共に燃ゆる炎の中を歩まれたキリストは、それと同じように喜んで、わたしたちの性質のすべての思いを征服してくださるのである。今日、彼はあわれみの座に立って、その助けを求める人々の祈りを神にささげておられる。キリストは悔いて泣く者をひとりとして、退けるようなことをなさらない。ゆるしと回復を求めて主のもとに来るすべての者を、惜しみなくゆるしてくださる。キリストは知っておられることを全部人にはお告げにならないが、恐れる魂に勇気を持つようにお命じになる。望む者は神の力をつかみ、キリストと和らぐことができ、主もまた彼と和らがれるのである。

イエスは、避け所を求めて来る魂を告発と口論から、救ってくださる。人間も悪天使もこれらの魂を非難することができない。キリストは神であり、また人であるご自分の性質に、彼らを結合させてくださる。その人々は、神のみ座から出る光の中に立ち、罪を負う偉大な御方の側に立つのである。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 60,61）

危機はわたしたちに迫っている。わたしたちは今、家庭において、涙と断食と祈りをもって神を求めている必要がある。（説教と講和 2 巻 70）

わたしたちは幼子のように神のみ許へ来なければならない。そしてわたしたちが自分の貧しさと弱さを自覚するとき、それをわたしたちにとって何の力にもならない人に話すのではなく、神に話さなければならない。なぜなら、このお方はわたしたちのために何をなさるべきかをまさにご存じだからである。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰおよびｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892 年 6 月 1 日）

11月23日

わたしは主によって誇る

「わが魂は主によって誇る。謙遜な者はこれを聞いて喜ぶであろう。」（詩篇34:2 欽定訳）

他の人々が、あなたがイエスと共にいて、そのお方から学んだ者であることを知るようになるため、あなたの管理職とあなたの奉仕とあなたの扱うすべての仕事が、厳格な正直さ、および真理の聖化する感化力によって特徴づけられるものとしなさい。あなたのなすすべてのことにおいて実りある者となりなさい。一つの利己的で貪欲な行為も、天の書のあなたの名前のところに記録されないようにしなさい。あなたが神の子であると公言する一方で、実は世に仕えるようなことを許してはならない。心と魂と思いと力をもって神に仕えなさい。そのとき、天の御使たちはあなたのそばに来て、敵に対してあなたのために旗印を掲げて下さる。

あなたの贖いのためにご自身を下さったお方の奉仕に、あなたの心と命を尽くして捧げなさい。敵を失望させなさい。彼の計画を実行するための彼の道具となることを拒否しなさい。サタンがあなたに提供し、もし受け入れるならあなたの宗教経験にとって呪いとなることがわかる資金的な利便に背を向けなさい。そのとき、あなたは心の清さをもって次のように言うことができる、「わが魂は主によって誇る」（詩篇 34:2）。あなたの生活の中に、欺きの発案や奇策や不正な陰謀やたくらみがないようにしなさい。他の人のうちにあれば、あなたが責めるようなすべてのことから離れなさい。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905 年 4 月 27 日）

アブラハムのように、今日も、なお、多くの人々が試みを受ける。彼らは、天から直接語られる神の声を聞かないが、神は、神のみことばの教訓と摂理のできごとによって彼らを召される。富と栄誉を約束する職業を捨てて、気の合った有益な仲間を離れ、親族と別れ、克己と困難と犠牲だけを要求するように思われる道に進むように要求されるであろう。神は、彼らに仕事をさせようとしておられる。しかし、安易な生活、友人や親族の感化は、その働きを完成するのに必要な品性の発達を妨げるのである。神は、彼らを人間的感化や援助から遠ざけて彼らに神の助けの必要を感じさせ、ただ神にだけ頼るように導いて、彼らにご自身を啓示しようとなさるのである。（人類のあけぼの上巻 124）

11月24日

すべてのタラントの与え主を高める

「だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」（マタイ 23:12）

クリスチャン人生において前進するとき、あなたはたえずキリストの満ちみちた徳の高さにまで至るまで成長していく。自分の経験において、あなたは人知を超える神の愛の長さ、広さ、深さ、高さがどのようであるかを証明するようになる。あなたは自分の無価値さを感じるようになる。あなたが品性の完全を主張するような傾向はなく、ただ自分のあがない主の完全さを高めるばかりである。イエスの知識におけるあなたの経験が徹底的で豊かになればなるほど、あなたの自己に対する見解はますますへりくだったものとなる。あなたが十字架の足元に伏して低くなればなるほど、自分の購い主に対する見解がますますはっきりとし、ますます高められる。神を最上に愛すること、そしてあなたの隣人をあなた自身のように愛することこそ、真の聖化である。聖書の改心は、利己心が一切なく、自己称揚も、また自慢げな聖潔の主張のない、継続的かつ永続的な活動へと導く。もしあなたが真に神に改心しているならば、あなたは真理を支持する力強い説得力のある感化力を発揮するのである。クリスチャンであるということがどういう意味であるかについての知的な知識は、どこへいこうとあなたを祝福としてくれる。あなたに一タラント、二タラント、あるいは五タラントあろうと、神の恵みをむなしく受けることがないように、それらはすべて信頼して委ねて下さったお方の奉仕に捧げられる。わたしたちに与えられた光と知識にしたがって、わたしたちは他の人々の模範となるべきである。わたしたちは、世において自分たちを善のための力とし、周囲の人々を祝福し、高めるために、真理および真理の創始者であられるお方をしっかりとつかんでいなければならない。……

各々にその働きが与えられており、もし人が自分の働きを忠実さと熱心さをもってなすならば、その人は神の恵みの忠実な管理職なのである。

神はあなたのよい言葉や行いが、あなた自身に人からの讃美をもたらすように、あなたの光が輝くようにとは意図しておられない。そうではなく、あらゆる善の創始者が栄光を受けて、高められるのである。イエスはご生涯において、人間に品性の模範を残して下さった。世がこのお方を世の標準に従ってかたち造るには、どれほど力がなかったことであろう！世のすべての感化力は振り落とされたのであった。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1888 年 10 月 16 日）

11月25日

わたしたちの態度を見張る必要

「しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、『神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う』とある。」（ヤコブ 4:6）

自分の過ちを認める人には、いつでも悔い改めと改革の希望がある。しかし、ある者はあまりにも誇りが高く、自分たちの過ちがはっきりと指摘され、自分でそれがわかるときでさえ、自分たちが過ちのうちにいることを告白しない。全般的に、彼らは自分たちが過ちに陥りやすい人間であることを認める。しかし、彼は他人が、あたかも自分たちは過ちに陥ることがないかのように扱ってくれることを期待する。そのような告白は神には何の価値もない。……

このような種類の人々のために働くことは本当に落胆させる。彼らの誤った道が、彼ら自身にとっても他の人々にとっても危険なものとして指摘されると、彼らはそれを環境のせいにするか、あるいは自分たちこそ受けるべき譴責を他の人に受けさせることによって、言い訳しようとする。彼らはだれかが自分たちを罪人とみなそうとしているといって怒りに満たされる。彼らを譴責する人は、彼らに個人的な害を働いたものとみなされる。

それでいながら、まさに自分自身の欠点には非常に盲目な人々こそ、しばしば他人の欠点に気づくのは早く、その人の言葉を批判し、その人が何かしたことやしなかったことに対して責めるのにすばやい。彼らは自分自身の過ちの方が、神の御目にははるかにもっと嘆かわしいということに気がつかない。彼らは、キリストが自分自身の目には梁があるのに自分の兄弟の目からちりを取り除こうとする者として表された人のようである。神の御霊は隠れた罪、もし抱いていれば増し加わり、魂を破滅させる、闇の中に隠された罪を明らかにし、譴責なさる。しかし、自分自身は譴責を超越していると思う人々は、神の御霊の感化力を拒否する。他人を矯正しようと彼らが努力するとき、彼らは忍耐や親切や敬意を表さない。彼らは無我の精神、優しさ、イエスの愛を示さない。彼らはするどく、耳触りで、その言葉や精神において明らかに邪悪である。

他人に対する不親切な非難の一つ一つ、自己尊重の思いの一つ一つは、「指をさすこと、悪い事を語ること」である（イザヤ 58:9）。この自己を誇りのうちに高めること、すなわちあたかもあなたが過ちのないものであるかのように、他人の過ちを拡大することは、神にとって忌まわしいことである。（原稿ﾘﾘｰｽ 15 巻 173, 174）

11月26日

日ごとに高められる

「主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。」（ヤコブ4:10）

今は、贖罪の大いなる日である。わたしたちが心を燃え立たせ、不一致を生じさせる最高位を争う戦いに従事するよりも、自分たちの魂を悩ませるほうがどれほど良いことであろう。決して、悪を思ったり、語ったりしてはならない。このようにする誘惑に会うとき、自ら神の許へ行き、この忌むべき罪に打ち勝つために助けて下さるよう求めなさい。神の御目の前に自らへりくだりなさい。そうすれば、このお方があなたを持ち上げて下さる。あなたが自らをへりくだらせるとき、このお方の憐れみ深いみ手がわたしたちを引き上げて下さることを讃美しようではないか。（レビュー・アンド・ヘラルド 1901年12月31日）

起きて、神があなたを助けて下さることを感じなさい。あなたの魂の言葉を、彼は必ず栄え、わたしはおとろえる、としなさい。「わたしに」あるいは「わたしは」をしかるべきところへおき、イエスを掲げ、イエスを語りなさい。もしこのお方があなたのすべての計画の根底におられなければ、すなわちもしあなたの目が神の栄光だけに向けられ、あなた自身はこのお方のすべての戒めに従順で、永遠の現実を視野にとどめていなければ、あなたは敗北者の側にいる。

すべての人に気持ちよく親切でいられる以上の責任を引き受けてはならない。あなたに、あなたとあなたの重荷を運ぶのにありあまる能力のあるお方の力と助けがなければ、あなたの重荷はあなたを押しつぶしてしまう。キリストはご自分のくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いと宣言なさる。イエス・キリストを通してあなたは上品にくびきを負うことができる。もしあなたが自らを高めるならば、そのときあなたは主があなたを低くする必要のある場所に自らをおくことになる。もしあなたが一歩ごとに自らを低くするなら、イエスがあなたを引き上げて下さる。しかし、引き上げることはみなイエスにしていただきなさい。そして、イエスがいつもくびきの重い一方を担って下さることを覚えていなさい。そのとき、もしあなたが神と共に働く共労者であれば、あなたには一歩ごとに神聖な助け主がおられるのである。あなたは世にいながら、世のものとならずにいることができる。心が純潔で人の親切という乳に満たされ、主の道を守り、公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことができる。

あなたの生涯における一ページ一ページを、朝ごとに新鮮で純潔できよいものとしなさい。それから、あなたの心を神の許へと高められた状態に保ちなさい。神に導きを求め、このお方の自由の御霊によって支えていただくことを求めた祈りを呼吸し、神の御使たちがあなたのかたわらに来て助けてくれるように、上よりの知恵を求めて祈りなさい。（原稿リリース12巻109, 110）

神はあなたをかえりみて下さる

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」（ペテロ第一 5:6, 7）

もしあなたが自分の思いわずらいをいっさい、すずめが落ちることに注目なさる〔神〕にゆだねることができるなら、あなたはむなしく信頼することはない。もしあなたがこのお方の確かな約束に安んじ、あなたの正直さを保つならば、神の御使たちがあなたのまわりにいる。神のみ前に信仰のうちに良いわざをなしつづけなさい。そのとき、あなたの歩みは主によって整えられ、このお方の繁栄のみ手があなたから取り去られることはない。

もしあなたが自分自身の歩みを選ぶにまかされたなら、この問題について不十分な働きをなし、すぐにも信仰の破船に会うであろう。いっさい重荷を負って下さるお方に、あなたのすべての思いわずらいと重荷をゆだねなさい。しかし、あなたのクリスチャン品性を傷つけるようなしみは一つも許してはならない。……わたしたちにはご自分の子らをかえりみて下さり、必要な時はいつでも、ご自分の恵みを十分に与えたいと願い、与えて下さる天父がおられる。わたしたちに関わる物事の取り扱いを、自らの手に引き受け、成功のために自分自身の知恵に頼るとき、わたしたちはまず不安になり、危険と損失を予期することができる。なぜなら、それはほとんど確実にわたしたちにおとずれるからである。

十分にしてあますことのない神への献身がわたしたちに求められている。罪深い死すべき人間の贖い主が、わたしたちのために労し、苦しんでおられる間、このお方は自己を否定された。そしてこのお方の全生涯は骨折りと欠乏の光景の連続であった。このお方は、ご自分が地上での日々を安逸と豊富の中で過ごし、この世の生涯のあらゆる楽しみと喜びをご自分のものとすることもおできになった。しかし、このお方はそうなさらなかった。このお方はご自分の都合をお考えにならなかった。このお方はご自分を喜ばせるためではなく、善を行い、他の人々を苦しみから救うために、もっとも助けを必要としている人を助けるために生きられた。このお方は最後まで耐え忍ばれた。彼はみずから懲らしめをうけて、わたしたちに平安を与え、わたしたちすべての者の不義を担われた。苦い杯はわたしたちが飲むようにと配分されていた。わたしたちの罪がそれを混ぜ合わせたのである。しかし、わたしたちの愛する救い主は、わたしたちの唇からその杯をとって、ご自分が飲んで下さり、その代わりにご自分がわたしたちに憐れみ、祝福、そして救いの杯を提供して下さるのである。（教会への証 2 巻 72, 73）

11月28日

迫害に直面するとき

「あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに寄り頼む者のために人の子らの前に施されたあなたの恵みはいかに大いなるものでしょう。あなたは彼らをみ前のひそかな所に隠して人々のはかりごとを免れさせ、また仮屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせられます。」（詩篇 31:19, 20）

非難と虚言はいつも義務を果たすのに忠実な人々についてまわる。義なる品性は、どんなに中傷や虚言によって評判が傷つけられていようと、その徳と卓越さの純潔を保つ。汚泥の中に踏みにじられても、天にまで高められても、クリスチャン生活は同じであるべきである。そして、誇りをもった潔白の自覚こそ、それ自身の報いである。敵の迫害は、実際に評判の基となっている基礎を試す。遅かれ早かれ、悪評判が真実であるか、あるいは悪意や復讐の矢で毒されていたかが世に明らかにされる。神に仕えることにおける一貫性だけが、そのような問題の決着における唯一安全な方法である。イエスはご自分の民が、ご自分のみ事業の敵に彼らの聖なる信仰を非難するすきを与えることがないよう大いに注意を払うことを望んでおられる。どんな悪い行為もその純潔に一つの汚名をも投げかけるべきではない。あらゆる議論が目的を果たさないとき、中傷者はしばしば自分たちのいらだたしい火を悩まされる神の僕たちの上にさらす。しかし、彼らの偽りの舌はついには、彼ら自身の上に呪いをもたらす。神は最終的に義人を擁護され、罪のない者に誉れを帰し、彼らを仮屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせられるのである。

神の僕たちはしばしば非難に苦しむ。しかし、大いなる働きは、迫害、投獄、むち打ち、また死のただ中で進められていく。時代と共に迫害の性質は変わるが、原則―その根底にある精神―は、数世紀前に主の選ばれた者たちを石で打ち、たたき、殺したのと同じである。

神の御子ほど、残酷に中傷を受けて、人々の間を歩んだ人は一人としていない。このお方はすべての点において、苦々しい非難に直面された。彼らはゆえなくこのお方を憎んだ。……しかしこのお方は、非難はクリスチャンの遺産の一部であると宣言し、ご自分に従う人々にいかにして悪意の矢に対応するかを勧告しながら、静かに彼らの前に立っておられた。（預言の霊 2 巻 212, 213）

主は立ちあがられる

「主よ、立ちあがってください。神よ、み手をあげてください。謙遜な者を忘れないでください。」（詩篇 10:12 欽定訳）

嵐がせまっている。だから、わたしたちは神に対する悔い改めと主イエス・キリストに対する信仰を持つことによってその激しい怒りのために準備しなければならない。主は恐るべきほど地をふるうために立ちあがられる。わたしたちはいたる所に問題を見るようになる。幾千もの船舶が海の深みに投げつけられるであろう。艦隊は沈み、何百万という人命が犠牲になるであろう。火災が予期せぬところで勃発し、人の努力ではそれらを消すことができない。地の宮殿は炎の激怒の中で一掃される。鉄道災害がますます頻繁に起こる。旅行中の長蛇の列に一瞬の警告もなく、混乱、衝突、死が起こる。終わりは近く、恩恵期間は閉じようとしている。ああ、見出すことのできるうちに神を求めようではないか。このお方が近くおられるうちに呼び求めよう！預言者は次のように言っている、「すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう」（ゼパニヤ 2:3）。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1890 年 4 月 21 日）

この地上歴史の終わりの光景において、戦争が激しく続くであろう。伝染病、疫病、飢饉があるであろう。海水がその境を越えてあふれるであろう。財産と生命が火災や洪水で滅ぼされるであろう。これはキリストがそのために死なれた魂は、キリストが彼らのために用意しに行かれた住まいにふさわしくされつつあるべきことをわたしたちに示すのである。（ﾎｰﾑ・ﾐｯｼｮﾅﾘｰ 1897 年 7 月 1 日）

わたしたちは悪に抵抗するためには、絶えざる見張りと祈りを要求される時代に生存している。神の尊いみ言葉が、天の王に忠実でありたいと願う青年たちの標準となるべきである。彼らに聖書を研究させなさい。聖句を次々と暗記させ、主が何と言われたかについて知識を得させ、それからこのお方のみ言葉に厳密に従わせなさい。テストされるとき、裁判において、青年たちに神のみ言葉を彼らの前に広げさせ、そして謙遜な心をもって、信仰のうちに主の道を見つけ出すための知恵と、そこに歩むための力をこのお方に求めなさい。主はご自分の子らを愛される。そして母親が自分の子供に対するよりも強く深い愛情もって愛されるのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1887 年 8 月 3 日）

11月30日

「世は過ぎ去る」

「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。」（ヨハネ第一 2:15–17）

自分たちが世に仕えながら、なお神を愛することができると考える人々は、二心のものである。しかし、彼らは神と富に兼ね仕えることはできない。彼らは二心の者であって、世を愛し、自分たちの神への義務の自覚を全く失っていながら、なおキリストに従うものであると公言している。彼らはこちらでもなければ、あちらでもない。真理の純潔な原則への従順を通して、自分たちの手を清め、心を純潔にするのでない限り、彼らは両方の世界を失うことになる。……

真の信心を破壊しているのは、世俗の欲である。（教会への証 1 巻 531）

神は世から分離し、区別されている民を持たれる。だれでも、世の流行を真似したいという願いをいだくとき、このお方は彼らをご自分の子として認めるのをおやめになる。そして、彼らは世と闇の子となる。キリストを公言してきた人々が、実際にはこのお方を離れて、自分たちがイエスの恵みも柔和とへりくだりも知らないものであることを示す。彼らがこのお方と親しいならば、このお方にふさわしく歩むはずである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 9 月 9 日）

ああ、キリストに従う人々が、今危険にさらされているのが、家や土地ではなく、株や麦畑、あるいは命そのものでさえなく、キリストがそのために死なれた魂であることを悟るならば！わたしたちはいつも日ごとに会う男女が、裁きを受けなければならないことを覚えているべきである。彼らはわたしたちが義務に不忠実であったかどうか、わたしたちの模範が彼らを真理とキリストからそらせたかどうかについてわたしたちに不利な証をするために、あるいはわたしたちの忠誠が彼らを義の道へ向けさせたという証を担うために、白い大いなる御座の前に立つのである。これらの魂は終りのない時を通じて生き、神と小羊に讃美を捧げるか、もしくは、悪人と共に滅びるかのいずれかである。キリストは彼らが祝福の永遠を楽しむことができるために苦しみ、死なれたのである。わたしたちは彼らの救いのためにどのような犠牲を喜んで払うであろうか。（同上 1886 年 1 月 9 日）.

12月1日

神の道を知らせる

「どうか神がわれらをあわれみ、われらを祝福し、そのみ顔をわれらの上に照らされるように、これはあなたの道があまねく地に知られ、あなたの救いの力（健康）がもろもろの国民のうちに知られるためです。」（詩編 67:1, 2）

あなたは親友や日々交わる人々に真理を伝えることが重要であり、重荷であると感じるであろうか。あなたは近隣において、あなた自身の家族の中で伝道者であろうか。あなたが最もよく知られている場所で改革の深い働きを進めようとしているであろうか。あなたの生活はあなたの家族や労働者のいる家庭で感化を与えるような生活であろうか。あなたは図表を掛けて、そこに説明されている通りに真理を彼らに示すことができる。もしあなたがこのようにすべきであるという思いを持っているなら、預言的な歴史を説明し、預言をたどることによって、万物の終わりが近いことを彼らに教えることができる。あなたは神の律法の聖なることを彼らに印象づけ、その要求を彼らに示すことができる。……

知恵と柔和によってあなたは魂をキリストと真理に勝ち取ることができる。しかしある人々はこの働きをする代わりに自分自身の事業を最も重要なものとする。彼らは自分の現世の事業のことを話し、労働に見合う最大量を得ることができるようにと活力をすべて注ぎ込んでいる。これが彼らにとって朝から昼まで、昼から夜まで最も重要な関心事である。一日中彼らの態度と行動は自分たちの労働者に対して、わたしの農場はわたしの神であり、真理やあなたの魂の救いよりももっと価値があると言っている。その日の記録は天へ上り、足りないことがその人の名の反対側に記される。彼はイエス・キリストの僕であると公言するが、ただ自分自身の利益に仕える。彼は不忠実なしもべである。あなたは審判であなたに不利となって現れる男女に囲まれる。彼らは「あなたはこれらのことを信じていたのになぜわたしに言わなかったのか。あなたの家屋と土地はあなたにとってわたしの魂の救いよりももっと関心があったのだ」と言う。

神を愛すると公言する者がだれであっても、自分自身の事業に手と頭脳をもちいて非常に熱心に働き、熱い精神からくる奉仕を神にささげるのに自分をふさわしくないものとするのはこのお方にとって不快なことである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1870 年 3 月 29 日）

12月2日

神の栄光をあらわす

「全地よ、主に向かって歌え。日ごとにその救いを宣べ伝えよ。もろもろの国の中にその栄光をあらわし、もろもろの民の中にくすしきみわざをあらわせ。」（歴代史上 16:23, 24）

神の御霊は、唯一平和と休息を与えるもの―より高くより聖なる天の喜び―を求めるようにと、絶えず人々の思いに印象を与えておられる。命と栄光の主なるキリストは、人をサタンの力から贖うためにご自分の命をお捧げになった。わたしたちの救い主は、人々の思いを現世の満足させない快楽から、永遠の未来において彼らのものとすることのできる値のつけられない宝へと引きつけるために、見える感化力と見えない感化力を通していつも働いておられる。

神は、ご自分の民が言葉と態度で、地上の魅力や世的な財産は天の嗣業を失うのを埋め合わせするのに十分な価値はないことを世に宣言するのを望んでおられる。真に光の子であり昼の子である人々は、会話、衣服、態度において虚栄心が強く軽薄な者ではなく、節度があり熟慮し、絶えず魂を贖い主に引きつける感化力を及ぼす。十字架から反射するキリストの愛は、無限の愛のひもでわたしたちの救い主のうちに見出される平安と幸福へと、罪人を引き寄せつつ彼のために嘆願している。神は、ご自分に従うすべての者が彼らのふるまい、衣服と会話、生活に従事するすべてにおいて、真の信心の力はこの世と来世においてすべての者に益をもたらし、これだけが受ける者の魂を満足させることができることを、明白な言葉で生きた証を担うようにと命じておられる。（教会への証 4 巻 580,581）

わたしたちは、自分たちを世から分離し、今日あるを得させた特別な真理を目立たないものにすべきではない。なぜならそれらは永遠の関心事に満ちているからである。神はこの最後の残りの時今場所を占めている事柄に関してわたしたちに光を与えておられるので、わたしたちはペンと声をもって、無気力な熱意のない方法ではなく、御霊と神の力の論証で世に真理を宣布すべきである。……

わたしたちは、バビロンにおけるダニエルと彼の仲間がしたように、何が来ようと、原則に忠実であることを目的とすべきである。彼らは試練の時に堅く立ち、炉に投げ入れられ、神に見捨てられなかった。（牧師への証 470,471）

12月3日

なぜ神を喜ばせるのを遅らせるのか

「あなたのパンを水の上に投げよ。多くの日の後、あなたはそれを得るからである。あなたは一つの分を七つまた八つに分けよ。あなたは、どんな災いが地に起こるかを知らないからだ。」（伝道の書 11:1, 2）.

天へのわたしたちの会計報告は、わたしたちを恐れおののかせる原因となるべきである。終わりの日の決定は実際の善行しだいである。キリストは善行のどの行為もご自身になされたものとしてお認めになる。

わたしたちの世でなされるべき大いなる働きがある。男女は舌の賜物や奇跡を働くことによってではなく、十字架にかかられたキリストを宣布することによって変えられるべきである。世をより良くするための努力はなぜ遅れているのであろうか。なぜある者は素晴らしいことが起こるのを待ち、ある者は高額の機械が供えられるのを待つのであろうか。あなたの領域がいかにいやしいものであろうと、あなたの働きがどれほど身分の低いものであろうと、もしあなたが救い主の教えと調和して働くなら、このお方はあなたを通してご自身をあらわし、あなたの感化力は魂をこのお方へと引き寄せる。このお方は、ご自分への奉仕を熱心に行おうとする柔和で身分の低い者に栄誉をお授けになる。わたしたちの働きが商店、農場、事務所のいずれであっても、わたしたちが行うすべてのことに魂を救うための努力を持ち込むべきである。

わたしたちは、自分の魂を神の愛の内に保ちつつ、主人であるお方の奉仕に自分に委ねられた財産を用いつつ、昼の間に働きながら、すべての水のほとりに種をまくべきである。わたしたちの手が行うべきことを何であっても見つけるなら、わたしたちは喜んでそれを行うべきである。どのような犠牲を払うように命じられても、それを進んで行うべきである。……

救い主は、ご自分が見出す者を形づくることを引き受け、ご自身のみ名の栄光のために彼らをお用いになる。このお方は、他の者は見過ごすような人材をお用いになり、献身するすべての者の内で働かれる。このお方は、見たところ希望のない人材、サタンが卑しくしてしまった者を引き受けることを喜ばれ、彼らをご自分の恵みの臣民となさる。彼らを苦しみから、また不従順な者に襲いかかる怒りから救い出すのを喜ばれる。このお方はこの働きを成し遂げる中でご自分の子らをご自分の代理人となさるので、彼らはこの世においてすら、その成功の中で尊い報いを見出す。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905 年 1 月 5 日）

12月4日

イエス……そしてヨブから学ぶ

「わたしは目しいの目となり、足なえの足となり、貧しい者の父となり、知らない人の訴えの理由を調べてやった。」（ヨブ 29:15, 16）.

〔キリスト〕は他の人々の善のために生きることをわたしたちの義務としておられる。このお方はご自分が人にどれほどの大きな関心を持っておられるかを示すために、天の宮廷からこの世へ来られた。……

もし天の至高者が人に対するご自分の愛をこれほど多く示すことがおできになるのであれば、人は闇と苦しみの穴の外へ出るために互いに助けようとする意志があるべきではないだろうか。……わたしたちの愛は、しばしば利己的である。なぜなら、それを定めた範囲に限定するからである。わたしたちがキリストとの密接な結合と協力に入るとき、わたしたちの愛と同情と善意の働きは、実践によってより深く達し、より広くより力強くなる。キリストに従う者の愛と関心は、広く世界に及ばなければならない。単に自分と自分のもののために生きる者は天を失う。神は、愛を培う家族としてあなたに、あなた自身に関しては敏感にならず、他人の深い悲しみや試練にはもっと敏感になるようにと命じておられる。あなたが自分の生活すべてを大事にしてきたこの利己的精神は、道の反対側にいた不運な人のそばを通り過ぎた祭司とレビ人によって正しく描かれている。彼らはその人が助けを必要としているのが分かったが、意識的に彼を避けた。

あなたがた一人びとりは、型にはまった利己的な生活から抜け出すためにしっかりと正視する必要がある。あなたの過去の人生の失敗を贖うために力を尽くして働くことによって、自分に与えられた短い猶予期間に向上しなさい。神はあなたを試み、あなたが永遠の命という賜物にふさわしいかどうかを知ろうとして、あなたを苦しみの世に置かれた。あなたのまわりには悩みのある人々、同情、愛、やさしい言葉を必要とする人々、わたしたちのへりくだったあわれみ深い祈りを必要としている人々がいる。ある人々は貧困という鉄の手の下で、ある者は病気で、また他の者は心痛、失望、深い悲しみで苦しんでいる。あなたはヨブのように、目しいの目となり、足なえの足となり、他人の訴えの理由を調べてやり、彼らの貧困を軽減し、彼らが最も助けを必要とするまさにそれを助けるために目に見える対象を探し出すべきである。（教会への証 5 巻 530,531）

12月5日

変わらない証人たち

「主は言われる、『あなたがたはわが証人。わたしが選んだわがしもべである。それゆえ、あなたがたは知って、わたしを信じ、わたしが主であることを悟ることができる。』」（イザヤ 43:10）

〔あなたがたはわが証人〕とイエスは言われたので、わたしたちは自分たちの生活の一つ一つの行為の中で、自分のふるまいが贖い主の王国の利益にどのような影響を及ぼしているかと尋ねなければならない。もしあなたが本当にキリストの弟子であるなら、あなたの生来の感情にどれほど苦痛を覚えても、このお方のみ足の跡を歩むことを選ぶ。「わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇りとするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである」と、パウロは言った。あなたは……昔マリヤがしたように、イエスの足元に座ってこのお方に学ぶ必要がある。神はあなたの意志、あなたの計画と目的を完全に明け渡すようにとあなたにお命じになる。イエスは、あなたが注意深く見なければならず、信頼しなければならないあなたの指導者であられる。あなたが神に負っている、献身の生活を妨げるいかなるものも、あなたは許してはならない。あなたの会話はあなたが自分の救い主を求めている天でのものでなければならない。あなたの敬虔はあなたの感化力の領域にいるすべての人に感じられる性質のものでなければならない。神はあなたに生活のどの行為においても悪の外見ですら避けるようにとお命じになる。あなたはこれをしているであろうか。あなたは主の敵と結びつくことによって、あなたの聖なる信仰を矮小化したり、妥協したりすることのないように、最も聖なる義務の下にいる。もしあなたが、他の人々がそうしているがゆえに、このお方のみ言葉による命令に注意を払わないよう誘惑されるなら、あなたの模範も感化を及ぼすことを覚えていなさい。他の人々はあなたがするように行い、このようにして悪が広がる。あなたが神の子であると公言する傍ら、あなたの側でこのお方のご命令からそれるなら、導きを求めてあなたを見ている人々に無限の害が結果として生ずる。

魂の救いはキリストに宿っている人々の変わらない目的である。しかしあなたを暗闇から呼び出してくださったお方をほめたたえるために、あなたは何をしてきたのであろうか。……

忠実への最も強い励み、最も気高い動機、最も栄光に満ちた報いがわたしたちの前に置かれている。永遠の喜びの門に着く人々は、自分たちがなした犠牲はあまりにも大きかったとみなさない。（教会への証 5 巻 367,368）

12月6日

真の必要に対処する

「『わたしはさきに告げ、かつ救い、かつ聞かせた。あなたがたのうちには、ほかの神はなかった。あなたがたはわが証人である』と主は言われる。」（イザヤ43:12）

あなたは来たるべき世界の力を味わったことがあるであろうか。あなたは神の御子の肉を食べ血を飲んできたであろうか。そうであれば、按手によって聖職者の手があなたの上に置かれていなくても、キリストはご自分の手をあなたの上に置き、『あなたはわが証人である』と仰せになる（イザヤ43:12）。

神がご自分の器としてお用いになる人々が、ある人々には無能であると見なされるかもしれないが、もし彼らが祈ることができ、彼らが真理を愛しているがゆえにそれを飾り気なく話すことができるなら、彼らは聖霊の力によって人々に達することができる。彼らがみ言葉から読み、あるいは経験上の出来事を思い出させつつ真理を飾り気なく示すとき、聖霊は思いと品性に印象づけてくださる。（教会への証6巻444）

任命された牧師ではないが神との交わりを持ち、聖書を理解しているわたしたちの民は、なぜほかの人々に御言を開かないのかと、わたしは不思議に思っている。もし彼らがこの働きに喜んで従事するなら、大いなる祝福が彼ら自身の魂に来るであろうに。神はご自分の民が働くよう望んでおられる。一人びとりの男性に、そして一人びとりの女性にも、このお方はご自分の働きを与えてこられた。だから一人びとりは自分のいくつかの能力に従ってこの働きを行うべきである。（世界総会冊子1901年4月22日）

牧師が真理の種をまく働きの大部分を行うようにと任せられるのは主のご目的ではない。牧師の職務に召されていない人々が、自分たちのいくつかの能力に従って主人であるお方のために労するよう励まされるべきである。今は怠けている幾百の男女が受け入れられる奉仕をすることができる。友人や近隣の家庭に真理を伝えることによって、彼らは主人であるお方のために大いなる働きをすることができる。神は偏（かたよ）りみられる方ではない。このお方は、たとえある他の人々のように徹底的な教育を受けていなくても、へりくだった献身しているクリスチャンをお用いになる。そのような人々に戸毎の働きをすることでこのお方のための奉仕に携わらせなさい。もしへりくだって思慮深く信心深ければ、彼らは炉辺で、任じられた牧師ができるよりももっと各家族の真の必要に対処することができる。（教会への証7巻21）

12月7日

キリストのために大胆に話す

「恐れてはならない。またおののいてはならない。わたしはこの事を昔から、あなたがたに聞かせなかったか、また告げなかったか。あなたがたはわが証人である。わたしのほかに神があるか。わたしのほかに岩はない。わたしはそのあることを知らない。」（イザヤ 44:8）

人々は、神に自分の心を捧げたのちも、彼らが持つことのできる力強さを受けないために、時々宗教上の主題に非常に控えめで臆病、神経過敏である。わたしたちは現世の関心事を差し控えることなく話すのに、なぜわたしたちの永遠の関心事を話すのにそれほど乗り気がしないのであろうか。すべての心が聖なる大胆さを吹き込まれることを願う。わたしたちが皆勇気と不屈の精神と信仰をもってイエスを掲げることができるようにと願う。（サインズ・オブ・タイムズ 1882 年 3 月 16 日）

カレブに勇気を与えたのは彼の神を信じる信仰であった。人への恐れから、力ある巨人であるアナクの子らさえ恐れず、彼を守り、権利を守ることにおいて大胆にしり込みしないで立つことを可能にしたのは、神を信じる信仰であった。同じ高められた源、天の万軍の力強い将から、キリストの十字架の真の兵士一人びとりは、しばしば打ち勝つことのできないように思える障害物を克服するために、力と勇気を受けなければならない。神の律法は無効にされているので、自分の義務を行いたいと思う者は神が自分にお与えになるみ言葉を常に語る用意をしていなければならない。（教会への証 7 巻 378）

わたしたちは失望落胆するのではなく、聖なる大胆さに満たされなければならない。

わたしたちは罪が広く認められることにより、あるいは右側左側に生ずる困難によって勇気を失うべきではない。わたしたちは神の武具で身を固め、正義のために堅く立たなければならない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1904 年 10 月 13 日）

神への堅固で逸脱しない信頼を示し、いつも原則に忠実でありなさい。揺れ動いてはならない。あなたが真理であると知っていることをはっきりと語り、その結果を神に任せなさい。神があなたの望みの真実性をテストしておられることを心に抱いていなさい。神のみ言葉を信じ、その御座にあなたの嘆願を訴え続けるのをやめてはならない。……教訓と模範によって高められた原則を保ちなさい。神は来たるべき命の力の中で、本物であり現実であるあなたの証を力あるものにしてくださる。（同上 1900 年 10 月 30 日）

12月8日

打ち勝つための二つの鍵

「今や、われらの神の救いと力と国と、神のキリストの権威とは、現れた。われらの兄弟を訴える者、夜昼われらの神のみまえで彼らを訴える者は、投げ落とされた。兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。」（黙示録 12:10, 11）.

わたしたちは小羊の血とわたしたちの証の言葉によってのみ打ち勝つ者となることができる。わたしたちは、よく秩序立てられた生活と信心深い会話によって、教会内と世で光となる。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 170）

天の雲に包まれたキリストの来臨のためにふさわしくなることは、他の何ものよりも重要であると考えられるべきである。わたしたちは自分の魂に持ち込まれた天とわたしたちの生活に表されるキリストを持つ必要がある。小羊の血と自分の証の言葉で打ち勝つ者となるのはわたしたちの特権である。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1909 年 4 月 8 日）

すべての者は、主のために、何かを語らなければならない。なぜならば、そうすることによって、彼らは恵まれるからである。集会を止めることはしないで、たびたび互いに語り合う人々について、覚えの書が書かれている。残りの民は、小羊の血と彼らのあかしの言葉によって勝利すべきである。ある人々は、小羊の血だけで勝利するものと思って、自分たちで特別の努力をしていない。神は……われわれに言葉の力をお与えになった。神はわれわれに舌をお与えになった。われわれはその用い方について責任を問われるのである。われわれは、われわれの口をもって神に栄光を帰し、真理と神の限りないあわれみをほめたたえ、小羊の血によるわれわれのあかしの言葉によって勝利しなければならない。

われわれは集会に来て黙っていてはならない。集会に来て神の誉れと栄光と力とについて語る人々だけが、主に覚えられる。このような人々の上に神の祝福が下り、彼らは新しい力を受ける。（初代文集 215, 216）

わたしたちのあかしは多くのことを意味する。それは全宇宙と世の前にある。（天国で 278）

12月9日

臆病から勇気へ

「「わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、自分の栄光と、父と聖なる御使との栄光のうちに現れて来るとき、その者を恥じるであろう。」（ルカ 9:26）

ピアース姉妹にはうぬぼれと自信があまりない。彼女には多くの恐れがあるが、臆病者と不信者、すなわち神の王国に場所を見出すことのない者の部類には入らない。町の外にいる人々は、言葉のうちに生きるが、行為と真理のうちには生きることをせず、最も自信があり、自慢げで、外見上は熱心な者の中にいる。彼らの心は神との関係において正しくない。神への畏れが彼らの前にない。第二の死で罰せられる臆病者と不信心者はこの世でキリストを恥じる部類のものである。彼らは正義を行いキリストに従うことを恐れ、金銭上の損失を受けないようにする。彼らは譴責や試練を避けるため、危険を逃れるために自分たちの義務を怠る。このように自分が試練、迫害、損失、苦しみにさらされるがゆえに、あえて正しいことを行わない者は臆病者、偶像礼拝者と共にいる者、偽り者、罪人であり、第二の死に熟しつつある。（教会への証 2 巻 630）

わたしたちは真理と過ちの最後の闘争が荒れ狂っているこの世の歴史の最も厳粛な時代に生きているので、わたしたちには正義のために勇気と堅固さ、神への信心深い信頼が必要である。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1886 年 11 月 4 日）

ほとんどすべての人が普通の会話で聞こえるのに十分大きく話すことができるのに、証をするか祈りをするよう頼まれると、同じ声とタラントがなぜ用いられないのであろうか。天の事柄、神の事柄を語るとき、なぜはっきりとした口調で、あなたが何について話しているかを知っていることを明らかにする方法で、あなたの色を示すことを恥じてはいないことを語らないのであろうか。……あなたの仲保者キリストがご自身の功績としみのない義を混ぜて、あなたの祈りを良い香りの香として捧げるために御父の前に立っておられる天の至聖所にあなたの目を向けなさい。（ｸﾘｽﾁｬﾝの教育 127）

あなたの救い主に絶えずより頼み、知恵と勇気を求めてこのお方のところへ行きなさい。（上を見上げて 146）

12月10日

キリストを告白する信徒

「だれでも人の前でわたしを受け入れる者を、人の子も神の使たちの前で受け入れるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者は、神の使たちの前で拒まれるであろう。」（ルカ 12:8, 9）

実際的な宗教はエネルギーと忍耐を宗教と共に持ち歩く。その実施は柔和、愛、思いのへりくだりに、克己と無私無欲の善行に表される。わたしたちの天父は心の目的と意図を量られる。もしあなたの力、不安、関心の大部分があなた自身と家族に仕えるために用いられるなら、またあなたの世的な事業を前進させるために用いられるなら、あなたが信じる真理が現実であることを不信心な世に、どのように証することができるであろうか。あなたは自分の信仰が本物であり、万物の終わりが近いことを本当に信じていることを、どうやってほかの人々に示すのであろうか。

この信仰を持ち、それを表現せず、自分たちの働きによってこの信仰を示さないことは、人には不可能である。もし彼らの関心を得ることに捧げられ、彼らの力が欲しいことに、この世の事柄にすべてついやされるなら、彼らには、キリストがそのために死なれた魂の価値を感じること、このお方がすぐに来られることを信じるのは不可能である。……

伝道者が欠乏している。わたしたちは、あなたがたが皆生きた伝道精神を持つことを願う。あなたがたは伝道者になるためにカリフォルニアやヨーロッパへ行く必要はない。あなたがたには自分たちの家族の中や、近隣で行うべき働きがある。あなたがたが最もよく知られている場所で、あなたがたの働きがその信仰と調和していなかったのであれば、あなたがたが外部の人々に良い評判であるようにと、神がもっと離れた場所や外国伝道のための働きの重荷を置く人々ではない。あなたがたは、自分が親友や日々交わる人々に真理を紹介することの重要性と重荷を感じるのであろうか。あなたがたは近隣で、家族の中で伝道者であろうか。あなたがたは自分が最もよく知られている場所で、改革の深い働きを前進させようと努めているであろうか。……

多くの者が、模範に裏付けされた教訓を思慮深く自分たちに与えた人々と共に働くことによって、真理に改心してきた。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1870 年 3 月 27 日）

二人ずつで働く

「主は別に七十二人を選び、行こうとしておられたすべての町や村へ、二人ずつ先におつかわしになった。」（ルカ 10:1）

キリストがご自分の弟子たちを伝道旅行におつかわしになった時、このお方は二人ずつつかわされた。これが主のご計画である。（原稿ﾘﾘｰｽ 15，59）

男だけでなく女も訪問伝道の分野に入ることができる。そして訪問伝道者は二人ずつ行くべきである。これは主のご計画である。

猶予期間が続いている限り、訪問伝道者には働く機会がある。宗教が神の民を圧迫するために法王権と結びつくとき、宗教上の自由がある場所は福音伝道者の訪問伝道によって開かれる。もしある場所で迫害が厳しくなれば、働き人にキリストが指示されたようにさせなさい。「一つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げなさい」（マタイ 10:23）。もしそこに迫害が来るなら、なおほかの場所に行きなさい。神は多くの場所でご自分の民を祝福しつつ、彼らを導かれる。迫害がなければ、彼らは真理を宣布するために非常に広くあちこちに散らされることはない。そしてキリストは「あなたがたがイスラエルの町々を回り終わらないうちに、人の子は来るであろう」と仰せになる（マタイ 10:23）。天において「事はなった」との言葉が語られるまで、そのメッセージを受け入れるための労と心のための場所がある。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1902 年 10 月 7 日）

兄弟たちよ、あなたがたはその働きの重要性を知るようにとわたしたちの民を導くために、熱心な説得力で話すタラントを用いるのであろうか。わたしたちは、訪問伝道をする者たちに地の暗い場所に光を持っていくようにと訴えつつ、彼らの熱意と熱心さを呼び起こさなければならない。タラントと能力をもっているだれにとっても免除はない。彼らは主の器であるようにと命じられ、この罪で暗くなった世界に天の光を注ぎ込むために主イエスと協力するよう命じられている。

あなたの現在と未来の利益を確保するために、キリストはご自身を犠牲として与えてくださった。あなたは犠牲によって神と契約することから引き下がるのであろうか。キリストは、罪のうちに滅びつつある世界を救うために十字架上で死なれた。このお方は魂を救うご自分の働きにあなたの協力をお求めになる。あなたはこのお方の助けの手となり、なされる必要のある働きをし、できる限り多くの人の前に真理を提示すべきである。（原稿ﾘﾘｰｽ 11,355,356）

12月12日

収穫のための実り

「収穫は多いが、働き人が少ない。だから収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。」（ルカ 10:2）

今成し遂げられるべき大いなる働きは、その働きに携わり、聖なる感化力を及ぼすために神の民を育てることである。彼らは労する者の役目を果たすべきである。彼らは知恵と用心と愛をもって隣人や友の救いのために労すべきである。表される感情はあまりに距離がある。十字架はそれがあるべきほどに正しく捉えられておらず、担われてもいない。すべての者が、自分たちは兄弟を守る者であり、自分の周りにいる人々の魂に対し非常に大きな責任があると感じるべきである、彼らがこの働きをすべて牧師に任せるとき、兄弟は過ちを犯す。収穫は多いが、働き人は少ない。評判の良い人々、その生活が信仰に調和している人々は、働き人になることができる。彼らは他の人々と打ち解けて話すことができ、真理の重要さを彼らに力説することができる。彼らは牧師を待って、神が自分たちに実行するようにと委ねておられるはっきりとした義務を怠ってはならない。（教会への証 1 巻 368,369）

あなたは自分が少ししかすることができないと考えて、主のために働くのをためらってはならない。あなたの小事を忠実に行いなさい。なぜなら、神があなたの努力と共に働かれるからである。このお方は、主の喜びに入る価値のある者として、あなたの名を命の書に書き込まれる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1891 年 6 月 16 日）

神のものと公言している民の中で、だれがこの聖なる働きを取り上げ、知識の欠如のゆえに滅びつつある魂のために労するのであろうか。世界は警告されなければならない。多くの場所が捧げられた、忠実な、疲れを知らぬ努力の必要があるとわたしに指摘されている。キリストはわたしたちの大きな町々で多くの人の心と思いを開いておられる。これらの人は神の御言の真理を必要としているので、もしわたしたちがキリストと聖なる同意に入り、これらの人々に近寄ろうと努めるなら、善に誘う感化力がもたらされる。わたしたちは目覚め、キリストとまた同胞と共に同情が心にわく必要がある。大都市、小都市、近くで遠くで働くべきであり、聡明に働くべきである。決してたじろいではならない。もしわたしたちが主の御霊と調和して働くなら、このお方は心に正しい印象をお与えになる。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 403,404）

12月13日

良心への神のみ声

「わたしはまた主の言われる声を聞いた、『わたしはだれを使わそうか。だれがわれわれのために行くだろうか』。その時わたしは言った、『ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください』。」（イザヤ 6:8）

心に秘めた計画や親しい友との交わりを捨てて、神の摂理の召しに応じる者はだれであろうか。キリストのための損は利益であると考えて、新しい任務を引き受け、働きが始められていない地に行き、堅い決心のもとに喜んで神のみわざに従事するのはだれであろうか。このようにする人はアブラハムと同じ信仰を持っている。（人類のあけぼの上巻 124）

主のみ声が「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」とお呼びになるとき、神の御霊は「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください」と応じるようにと、それを心の中にお入れになる（イザヤ 6:8）。しかし祭壇からの生きた炭がまずあなたの唇に触れるように、思いに抱きなさい。そうすればあなたの語る言葉は賢く聖なる言葉となる。そうすればあなたは何を言うべきか何を言わないままにすべきかを知る知恵を持つようになる。あなたは神学専門家としての賢さを表そうとしない。教理の論争点を持ち出すことによって闘争的な精神を起こしたり偏見を起こさせたりしないよう、あなたは気をつけるようになる。あなたは反感を起こさせるのでなく、神のみ言葉のより深い知識を望むようにと心を開くことについて語ることを十分見出す。

主はあなたが魂を勝ち取る者であることを望んでおられる。それゆえあなたは教理上の点を人々に押しつけるべきではなく、「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、柔和と恐れをもって弁明のできる用意をしている」べきである（ペテロ第一 3:15）。なぜ恐れるのであろうか。あなたの言葉に尊大なところがないように、思慮のない言葉を語らないように、言葉と態度がキリストのようでないところがないように恐れなさい。キリストと固く結びつき、真理をこのお方のうちにあるがままに提供しなさい。贖いの物語によって心に触れるのに失敗することはない。あなたがキリストの柔和とへりくだりを学ぶとき、人々に何を言うべきかを知る。なぜなら聖霊があなたにどのような言葉を語るべきかを言われるからである。（教会への証 6 巻 325）一人びとりのためになすべきことが何かある。真理を信じるそれぞれの魂は「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください」と言って、自分の地所と場所で立つべきである。（同上 49）

12月14日

伝道の手法

「どの町へ入っても、人々があなたがたを迎えてくれるなら、前に出されるものを食べなさい。そして、その町にいる病人をいやしてやり、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。」（ルカ 10:8, 9）

キリストの生涯の間、病人と苦しんでいる者はこのお方の特別の世話の対象であった。このお方が弟子たちを遣わされたとき、福音を伝えるだけでなく病人を癒す任務も彼らにお与えになった。このお方が 70 人を送り出されたとき、病人を癒し、次に神の国が彼らに近づいたことを説くようにと彼らに命じられた。使徒たちが説くべきであったそれらの真理によって、道が彼らの思いに到達する準備ができるために、彼らの身体の健康がまず世話を受けるべきであった。世の救い主は説教するよりも病気に苦しむ人々を癒すためにより多くの時間と働きを捧げられた。地上におけるご自分の代理人である使徒たちへのこのお方の最後の命令は、彼らが回復することのできる病人に手を置くことであった。主人であるお方が来られるとき、このお方は病人を訪問し苦しんでいる者の窮乏を和らげている人々をおほめになる。（教会への証 4 巻 225）

病人はどこにでも見出すことができるので、キリストのための働き人として出て行く者は真の健康改革者であり、病気の人々に苦痛を取り除く単純な治療を施し、それから彼らとともに祈る準備ができていなければならない。このようにして彼らは真理が入るための戸を開く。この働きをすると良い結果が続く。（伝道 516）

自分の所在を変えたい兄弟、神の栄光を考慮に入れている兄弟、他の人々に善を行うこと、またキリストがその尊い命を差し控えることをなさらなかった魂を益し、救うことが自分に置かれている個人的な責任であると感じる兄弟は、光がほとんど、あるいは全くない町々、村々に、彼らが自分たちの働きと経験で他の人々に心の奉仕をし、祝福することができる町々、村々に引っ越すべきである。伝道者は町々、村々に入り、真理の原則を掲げ、神が全地にご自分の証人を点在させることができ、真理の光がまだ届いていない場所にしみ込むことができ、真理の原則をまだ知られていない場所に掲げることが望まれている。（同上 52）

12月15日

教えを受ける魂を探し求める

「もしあなたがたを迎えもせず、またあなたがたの言葉を聞きもしない人があれば、その家や町を立ち去る時に、足のちりを払い落しなさい。あなたがたによく言っておく。さばきの日には、ソドム、ゴモラの地の方が、その町よりは耐えやすいであろう。」（マタイ 10:14, 15）

この世の人生の仕事の気苦労と比較して、神のみ働きの高められた性質を悟っている人は非常に少ない。天来の教師であられるイエスは、わたしたちにご自分の弟子たちを通して、わたしたちに教育の教訓を与えてこられた。イエスが十二人をお遣わしになったとき、このお方は彼らにどの都市や町に入っても、彼らはそこで自分たちの注意や訪問にふさわしい人を尋ねなければならなかった。そして、もし人々が自分たちに送られた祝福―キリストの使命者をもてなす特権―を重んじるふさわしい場所が見つかったなら、そこに彼らは滞在し、彼らが町を去るときまで彼らの平安はそこに安んじてよいのであった。彼らは、歓迎されていようがいまいがおかまいなしに、どの家でも、あるいはすべての家を無差別に訪問するようには、教えられなかった。そうではなく、もし彼らが歓迎されず、もし彼らの平安がその家で安んじることができないならば、彼らはそこを去り、家族の一人びとりがふさわしく、その彼らの霊が安んじることのできる家を探すのであった。

他の人々に真理を教えるために出て行くキリストの使命者たちが拒まれ、彼らの言葉が心の中に場所を見出さないとき、キリストが選び、遣わされた真理の使命者にあって、キリストが拒まれ、このお方のみ言葉が蔑まされているのである。これはキリストがご自分の選ばれた使命者たちに指示をお与えになったときのように、この世の時代においてまさに完全にあてはまる。

キリストが地上におられたときに、神の使命者に対して何の尊敬も敬意も持たず、自分自身の判断力のようには、彼らの警告を重んじない人々がいた。またこの世の時代には、自分自身の意見のように高く、神の選ばれた僕たちの証を尊重しない人々がいる。そのような人々は、神の僕たちの働きによって恩恵を受けることはできない。そしてそのような思いに対応し、神のみ働きの品位を下げるために、時間を失うべきではない。（教会への証 3 巻 449, 450）

12月16日

神のご臨在の約束

「すると、ある夜、幻のうちに主がパウロに言われた、『恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついている。だれもあなたを襲って、危害を加えるようなことはない。この町には、わたしの民が大ぜいいる』。」（使徒行伝 18:9, 10）

大都会における神の使命者たちは、救いのよきおとずれを伝える一方において、直面しなければならない罪悪、不正、堕落などについて失望してはならないのである。主は、罪悪に満ちたコリントにおいて使徒パウロにお与えになったのと同じ言葉をもって、こうしたすべての働き人を励まされるのである。〔使徒行伝 18:9,10 引用〕。救霊の働きに従事している者は、多くの者が神のみ言葉の中の神の勧告に耳を傾けないであろうが、全世界が、光と真理、長く耐え忍ばれる救い主の招きを拒むのではないことを忘れてはならない。暴力と犯罪に満ちたどの町においても、正しく教えられるならば、イエスの弟子になることができるものが多くいるのである。このようにして、幾千の人々に救いの真理が伝えられて、キリストを個人的救い主として受け入れるようになるのである。（国と指導者上巻 244）

わたしたちが世の潮流と共にこいでいる間は、帆もオールもいらない。わたしたちの働きが始まるのは、正面から向き直って潮流をせき止めようとする時である。サタンはあらゆる理論をもってきて、真理を阻もうとする。働きは厳しい。なぜなら、アダムの堕落以来、罪を犯すことは世の流行となってきたからである。しかし、キリストは活動の舞台におられる。聖霊は働いておられる。神聖な代理人たちが人間と結合して、完全な型に従って品性を新しい形に造り変えている。そして人は、神が内に働いて下さることを、外に働かせるのである。わたしたちは民として、この神の賜った働きをなすであろうか。わたしたちは注意深く、与えられたすべての光に耳を傾け、絶えず聖徒たちを神の王国にふさわしい者にするという一つの目的を自分たちの前におくであろうか。もし信仰によって、わたしたちが偉大な指導者に従いながら、一歩一歩正しい道を進んでいくならば、光はわたしたちの道すがら輝き、困難を取り除くための状況が起こる。神の是認が希望を与え、奉仕する天使たちがわたしたちと協力し、光と恵みと勇気と喜びをもたらすのである。（教会への証 6 巻 129, 130）

12月17日

わたしたちの境界を広げる

「あなたの天幕の場所を広くし、あなたのすまいの幕を張りひろげ、惜しむことなく、あなたの綱を長くし、あなたの杭を強固にせよ。あなたは右に左にひろがり、あなたの子孫はもろもろの国を獲、荒れすたれた町々をも住民で満たすからだ。」(イザヤ 54:2, 3)

神はご自分の民のためのメッセージをわたしにお与えになった。彼らは目覚めて、自分たちの天幕の場所を広くし、境界を広げなければならない。わが兄弟姉妹がた、あなたがたは代価をもって買われたのである。そしてあなたがたの持っているもの、またあなたがたの存在そのものは、神の栄光と同胞の益のために用いられなければならない。キリストは世を罪のうちに滅びることから救うために十字架上で死なれた。このお方はこの働きにおいて、あなたの協力を求めておられる。あなたは、このお方の助けの手となるべきである。熱心でうむことのない努力をもって、あなたは失われた者たちを救うよう努めなければならない。十字架を必要にしたのは、あなたの罪であることを覚えていなさい。……

キリストの恵みの変化させる力は、自らを神の奉仕に捧げる人をかたちづくる。贖い主の御霊が吹き込まれて、彼は自己を否定し、十字架を取り上げ、主人であるお方のためにどのような犠牲でも払う準備ができている。彼はもはや自分の周りで滅びつつある魂に対して無関心ではいられない。彼は自己への奉仕を超越して引き上げられる。彼はキリストのうちに新たに創造されたのであり、自己への奉仕はその生活の中に場所がない。彼は自分の存在のあらゆる部分が、自分を罪の奴隷から贖って下さったキリストに属していることを自覚する。自分の将来の一瞬一瞬が神のひとり子の尊い命の血潮で買われたことを自覚するのである。

あなたは魂を救う働きに、喜んで他のすべての関心ごとを従わせるほどカルバリーで払われた犠牲を深く感謝してきたであろうか。救い主の生涯に際立っていた罪人を救いたいという願望の同じ激しさが、真にこのお方に従う人々の生涯に際立つ。クリスチャンには、自分のために生きたいという願いはない。彼らは自分の持っているもの、また自分の存在のすべてを、ご主人の奉仕のために喜んでお捧げする。彼はキリストへ魂を勝ち取るという言い表しがたいほどの願いによって動かされる。この願いを少しも持っていない人々は、自分自身の救いを案じる方がよかろう。彼らに奉仕の精神を求めて祈らせなさい。(教会への証 7 巻 9, 10)

12月18日

偉大な任務に生きる

「〔イエスは、言われた〕、『わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』。」（マタイ 28:18–20）

わたしたちは、天来の命が他の人々へ流れる献身した水路にならなければならない。聖霊が命を吹き込み、教会全体に行き渡り、心を清め、結びつけなければならない。バプテスマにおいてキリストと共に埋葬された人々は、命の新しさへとよみがえり、キリストの生涯の生きた代表とならなければならない。わたしたちには、聖なる責任が負わされている。わたしたちに与えられた任務はこれである。〔マタイ 28:19, 20 引用〕。あなたは、救いの福音を知らせる働きに献身したのである。天の完全があなたの力となるべきである。（教会への証 9 巻 20, 21）

愛と単純さのうちに、戸別に尋ねて、真理を提示することは、キリストが最初の伝道旅行にご自分の弟子たちを遣わされたときにお与えになった指示に調和している。讃美の歌によって、またへりくだった心からの祈りによって、多くの人の心に触れることができる。神なる働き人は、心に確信を与えるためにご臨在なさる。「わたしは、いつもあなたがたと共にいる」というのがこのお方の約束である。このような助け手の永続的なご臨在の保証があるので、わたしたちは信仰と希望と勇気をもって働くことができる。

町から町へ、田舎から田舎へ、彼らは救い主がまもなく来られるという約束を記した出版物を携えていかなければならない。……

長く真理を知っている人々は、自分たちの心がなんとしても隣人のために働くという決心で満たしてくださるように、主にこの上なく熱心に求める必要がある。わが兄弟姉妹がた、近くに住んでいる人々を訪ね、同情と親切によって、彼らの心に触れることができるように求めなさい。偏見を生み出す代わりに取り除くような方法で働きなさい。そして、この時代のための真理を知っていながら、自分たちの努力を自分自身の教会のためだけに限定し、改心していない隣人のために働くことを拒む人々は、果たしていない義務のために責任を問われるようになることを覚えていなさい。（教会への証 9 巻 34, 35）

成就すべき幻

「道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい。」（ルカ 14:23）

多くの州には、一度もこの時代のための真理を聞いたことのない、勤勉で裕福な農夫たちの集落がある。このような場所で働くべきである。教会の平信徒にこの分野の奉仕に取りかからせなさい。書籍を貸したり、売ったりすることによって、ちらしを配布することによって、聖書研究を持つことによって、教会の平信徒は自分たちの近隣で、多くことをなすことができるはずである。魂への愛に満たされて、彼らは多くの人々に罪を自覚させるような力をもってメッセージを宣布することができるはずである。

二人の働き人が家庭の中に座していた。彼らの前に聖書を開いて、主イエス・キリストを罪を許す救い主として提示していた。熱心な祈りが神に捧げられ、心は神の御霊の感化によって和らげられ、征服された。彼らの祈りは新鮮さと力をもって述べられた。神のみ言葉が説明されると、わたしはやさしく輝く光が聖句を照らしているのをみた。そしてわたしは静かに言った、「道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい。」（ルカ 14:23）

尊い光が隣人から隣人へと伝えられていた。かつて壊されていた家族の祭壇が再び建てられ、多くの人々が改心した。

わが兄弟姉妹がた、奉仕のために主に献身しなさい。一つとして機会を活用せずにやり過ごしてはならない。病人や苦しんでいる人を訪ね、彼らに親切な関心を示しなさい。もし可能であれば、彼らをもっと快適にしてあげられることを何かしなさい。この手段を通して、あなたは多くの人々の心に触れ、キリストのための言葉を語ることができる。永遠だけが、このような働きの分野が、どれほど遠くにまで及ぶかを明らかにすることができる。自分の最も近くにある義務を喜んでなす人々の前に、有用性の他の分野が開かれる。今必要とされているのは、博学な者でも、雄弁な語り手でもなく、謙遜でキリストに似た男女、すなわちナザレのイエスから柔和と心の低さを学んだ者、またこのお方の強さに信頼して、『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』という招きを伝えるために、道やかきねのあたりに出て行く者である（17 節）。（教会への証 9 巻 35, 36）

12月20日

特権と義務

「わたしが暗やみであなたがたに話すことを、明るみで言え。耳にささやかれたことを、屋根の上で言いひろめよ。」（マタイ 10:27）

かつて人間に委ねられた中でもっとも厳粛な真理が、世に宣布するために、わたしたちに与えられてきた。これらの真理の宣布がわたしたちの働きとなるべきである。世は、警告を受けるべきであり、神の民は自分たちに委ねられてきた信任に対して忠実であるべきである。彼らは空論にふけるべきでも、未信者と事業を共に始めるべきでもない。なぜなら、それが神の与えられた働きに入ることを妨げるからである。

キリストは、ご自分の民に「あなたがたがは世の光である」と言われる（マタイ 5:14）。神の勧告とご計画がわたしたちにこれほどはっきりと明らかにされてきたということは些細なことではない。神のみ旨が確かな預言の言葉のうちに明らかにされた通りに理解できるというのは、すばらしい特権である。これにより、わたしたちには重い責任が負わされている。神はわたしたちがご自分のお与えになった知識を他の人々に与えるよう期待しておられる。神と人間の器が警告のメッセージの宣布において一つになることが神のご計画である。

自分の機会が及ぶ限り、真理の光を受けたすべての人は、次のみ言葉が伝えられたイスラエルの預言者と同じ責任の下にある。「人の子よ、わたしはあなたを立てて、イスラエルの家を見守る者とする。あなたはわたしの口から言葉を聞き、わたしに代って彼らを戒めよ。わたしが悪人に向かって、悪人よ、あなたは必ず死ぬと言う時、あなたが悪人を戒めて、その道から離れさせるように語らなかったら、悪人は自分の罪によって死ぬ。しかしわたしはその血を、あなたの手に求める。しかしあなたが悪人に、その道を離れるように戒めても、その悪人がその道を離れないなら、彼は自分の罪によって死ぬ。しかしあなたの命は救われる。」（エゼキエル 33:7–9）

わたしたちは、終わりの預言について何かを語る前に、それが成就するのを待つのであろうか。そのとき、わたしたちの言葉に何の価値があるであろうか。わたしたちは罪を犯す者に神の裁きをどのように避けるかを教える前に、彼らの上にそれが下るのを待つのであろうか。神のみ言葉を信じるわたしたちの信仰はどこにあるのか。（教会への証 9 巻 19, 20）

12月21日

いかなる代価を払っても真理を提示する

「あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、……長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。こうして、福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。」（マルコ 13:9, 10）

わたしたちには、真の安息日を重んじ、それを擁護するための最高の理由がある。なぜなら、それは神の民を世から区別する印だからである。世が無効とした戒めは、まさにこの理由のために、神の民がより大きな誉れを帰す戒めである。不信者が神のみ言葉に軽蔑を投げかけるときこそ、忠実なカレブが求められている。そのときこそ、彼らはみせびらかしなく、また非難によって揺れ動くことなく、義務の持ち場に固く立つのである。不信者の斥候たちは、カレブを滅ぼそうと待ち構えている。彼は偽りの報告を携えてきた人々の手中に石を見るが、それが彼を思いとどめることはない。彼にはメッセージがあり、彼はそれを担うのである。同じ精神が、今日、神に忠実である人々によって表されるようになる。……人々がイエスのそば近くに押し進むとき、キリストが信仰によって、彼らの心のうちに宿っておられるとき、神の戒めを愛する彼らの愛は、世がこのお方の聖なる戒めの上に積み上げる侮辱に比例してますます強くなっていく。これこそ、真の安息日が筆舌によって人々の前に提示されるべき時である。第四条の戒めとそれを守る人々が無視され軽蔑されるとき、忠実な人々は自分たちの信仰を隠すのではなく、第三天使のメッセージ、すなわち神の戒めとイエスの信仰と記された旗印を掲げることによって、エホバの律法を高めるべき時だと感じる。

イエスのうちにあるがままの真理をもっている人々は、自分たちの沈黙によってでさえ、不法の秘密の働きに支持を与えてはならない。彼らに警告の調子を響かせるのを決してやめさせてはならない。……財産と自由の危険を犯さなければ戦うことができない時が来ても、戦いはキリストの精神と柔和をもって応じなければならないことを、彼らに教えなさい。真理はイエスのうちにあるがままに維持され、支持されなければならない。富、誉れ、安楽、家庭―それ以外のすべての物―は二の次としなければならない。真理は隠されてはならない。それは否定されたり、隠したりするのではなく、あますことなく公言し、大胆に宣布されなければならない。（世界総会日誌 1891 年 4 月 13 日）

12月22日

起きて、光を放つ

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあらわれる。もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る。」（イザヤ60:1–3）

キリストの弟子たちは毎日の生活の中でこのお方を代表しなければならない。こうして天からの真の光がはっきりと安定した光線のうちに世に輝き出るのである。こうして、神のみ言葉を自分たちの案内また標準としない人々のうちに見られる品性とは全く違った品性が表される。神の知識は世を覆う闇と、人々を包み込むはなはだしい闇のただ中で保存されなければならない。（牧師への証 152）

シオンが起きて光を放つとき、彼女の光はもっとも行きわたり、尊い讃美と感謝の歌声が聖徒たちの集まりのうちで聞かれるようになる。小さな失望や困難についてのつぶやきや不平は止む。わたしたちが金の目薬を売るとき、はるかかなたの栄光を見るようになる。信仰は、サタンの重い影を貫き、わたしたちの助け主がご自身の功績の香をわたしたちのために捧げておられるのを見るようになる。わたしたちがこれをありのまま、すなわち主がわたしたちに望んでおられるとおりに見るとき、神の愛の広大さと多様性の感覚に満たされる。（教会への証 6 巻 368）

兄弟姉妹がた、わたしたちは神の改心させる力と、わたしたちの心を照らす真理を必要としている。それは、わたしたちが周りの人々を真理に導くことができるためである。

わたしたちは自分自身の義務の道を求めてはこなかったであろうか。わたしたちは神の事柄に対して眠っていたのではないだろうか。わたしたちは今目覚めて、天の神と生きたつながりを得ないであろうか。今、自分たちの足を義務の道におかないであろうか。（説教と講和 2 巻 54）

もしあなたの霊に主の栄光がのぼ……ったら、この言葉はあなたに送られているのである。あなたはキリストと共に変貌の山に立ったであろうか。山のふもとにはサタンにとらわれた多くの魂がいる。彼らは自分たちを解放してくれる信仰と祈りの言葉を待ちわびているのである。（祝福の山 53）

12月23日

神の栄光の知識

「海が水でおおわれているように、地は主の栄光の知識で満たされるからである。」（ハバクク 2:14）

ああ、わたしたちは神のみ言葉を探り信じる人々、すなわち力をもって御霊の証拠のうちに「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていない」と宣言しつつ（使徒行伝 4:12）、イエスをその神性と人性のうちに世に提示する人々を必要としている。ああ、わたしたちは今、生活と品性においてキリストを提示する信徒、このお方を世の前に御父の栄光の輝きとして掲げ、神は愛であると宣布する人を必要としている！

死につつある世があなたの前にある。そしてあなたはこの境界線の中のどこにおいてもなすべき働きを見つけることができる。しかし、あなたはキリストがそのために死なれた魂の救いのために、何をしているであろうか。神は人々が救いの良き知らせを聞くことができるように、そのみ摂理のうちに、生きた代理人がすべての地に来ることができるように備えをしてこられた。今や万事は整えられている。そして御使たちは出ていって、魂を神に引きよせることにおいてキリストに従う人々と働くことができるように、この終わりの時代のための真理を信じる人々と協力しようと待っている。

全天は人間の救いに関心をもっている。そして、働きは速やかになされ、神の御国が来て、海が水でおおわれているように、地は主の栄光の知識で満たされることができる。天の存在者たちの大きな願いは、あまりにも長く偽って伝えられ、誤解されてきた神のご品性が、敵の策略によって欺かれてきた人々の前に、正しく表されることである。そして今やキリストの御名が異教徒の間で大いなるものとなるべき時ではないだろうか。神は啓発されてきた人々が隊列に入り、悪者の要塞上で攻撃的な戦いを始めることを求めておられる。

安息日ごとに、あなたがたの多くは、生きた説教者の声を聞いている。しかし、何人が真理を自分の実生活に持ち込む必要を感じているであろうか。何人が、光が与えられたのは他の人々に反映させることができるためであることを自覚しているであろうか。民が自分たちに任命されている働きに参加できるよう、教育する必要が大いにある。（ホーム・ミッショナリー 1892 年 9 月 1 日）

12月24日

福音がすべての国民へ

「キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる」（ルカ 24:46, 47）

キリストは、ご自分の弟子たちに、またご自分の御名を信じるすべての人々を伝道者として含めて、ご自分の任務をお与えになったとき、天の御座からほんのわずか数歩のところに立っておられた。……もし神の事柄に生きた経験を持っていると主張する人々が、神から命じられた通りに、任命された義務を果たしていたならば、全世界は警告を受けて、主イエスは力と大いなる栄光を伴って、わたしたちの世に来られたはずであった。

神はご自分が世を裁かれる日を定められた。キリストはその日がいつ来るのかを教えて言われる、「そしてこの御国の福音は、……あかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」（マタイ 24:14）。サタンは、人々の理解力を盲目にし、キリストに従うと公言する人々に自分たちの重い責任をなおざりにさせ、はじめの愛を失わせるような方法で働いている。彼は、頑なで利己的で悪魔的な精神が、キリストがそのために死なれた魂を愛してきた多くの人々をとらえるような方法で働いてきた。彼らは神の器としてさまざまな方法で働くことができたはずであった。彼らは戸別訪問をし、理解力の暗くなっている人々に聖書を開いてみせることができたはずであった。神の御使たちは彼らの近くにいて、命の水に渇いている人々の心に印象を与えるはずであった。働き人たちが神のお与えになった光を放とうと努めるとき、神は彼らに聖霊を吹き込まれるはずであった。神の栄光だけに目を留めて働く人は、光を与えるときにますます光が増し加わる。彼は魂の価値を認めて悟り、改心していない魂との接触は、彼に神聖な祭壇で自分の芯に灯させ、自分の同胞にその光を持っていかせる。神は按手を受けていなくても、もっともいやしい人をお用いになる。すべての人はイエスのみ声と戸をたたく音に心を開きなさい。すべての人が天の万軍の前で働くように、主は長い間、伝道精神が教会の中に行きわたるのを待ってこられた。（ホーム・ミッショナリー 1896 年 8 月 1 日）

すべての人の責任

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」（マルコ16:15）

すべての改心した魂に話すべき働きがある。わたしたちは惜しみなく恵みを与えるために、恵みを受けるべきである。わたしたちは自己否定と自己犠牲の働きにおいて、輝く明けの明星からの光を降り注ぐために、キリストがご自身の生涯とご品性においてわたしたちにお与えになった模範に従い、それを輝かせるべきである。わたしたちは、多くの実を結ぶことができるように「根」から栄養を受けるべきである。神聖な招きを聞いたすべての魂は、丘や谷にメッセージをこだまさせ、接触する人々に「来たれ」と言わなければならない。改心の瞬間から、キリストを受け入れる人々は、世の光となるはずである。彼らは輝く明けの明星の栄光を反映させるのである。イエスは教会に、彼らがご自分の兄弟であり、神と働く共労者としてご自分と一つになるべきことを印象づけようとしておられる。彼らは人類の救いのために同胞となるべきである。キリストはご自分に捧げられてきた働きとは非常に異なる働きを諸教会に期待しておられる。……

真にキリストに従う人々は兄弟として愛し、地の塩であり、世の光である。すべての真の信者は、明星からの光線をとらえ、その光を闇に座している人々に伝える。彼らは自分自身の近隣で闇の中に輝くばかりではなく、教会としてかなたの地方に出ていく。主はすべての人が自分の義務を果たすよう期待しておられる。教会に連なるすべての人は、キリストと一つになり、明星からの光線を放ち、世の光となるべきである。キリストとその民は、世の救いという偉大な働きにおいて共労者となるべきである。

諸教会は、まったく教育されるべき通りに教育されてこなかった。彼らは祈り、神を礼拝するために集まる人々に聖書を開くために、牧師に頼るよう教育されてきた。神は民が神のみ声を聞き、ご主人のために働きに出ていくことを望んでおられる。福音を宣布するために按手を受けていない何千もの人が働くようになる。（ホーム・ミッショナリー 1896 年 8 月 1 日）

12月26日

弟子たちの時代が繰り返される

「弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き」（マルコ 16:20）

多くの働き人は自分の役割を果たし、戸別訪問の働きをし、家庭の中で聖書研究をすべきである。彼らは自分たちのキリストのみ旨への従順によって、恵みのうちに成長していることを示すべきである。こうして、彼らは豊かな経験を得るようになる。信仰のうちに彼らがキリストのみ言葉を受け、信じ、従うとき、聖霊の力が彼らの生涯の働きのうちに見られるようになる。熱烈で熱心な努力が見られるようになる。愛によって働き魂を清める信仰がいだかれる。御霊の実が生活に見られるようになる。

キリストは世の光であられる。このお方に従う人々は、闇のうちを歩む言葉なく、命の光を持つ。……キリストを眺めなさい。このお方を眺めることによって、心と思いと品性が神のみ旨に一致する。

すべての人はわたしたちの伝道事業が与えることのできる教えを必要としている。伝道事業が確立されるように導いたのと同じ御霊の力によってあなたの働きを継続しなさい。聖書を開くことによって、祈ることによって、信仰を働かせることによって、主の方法に人々を教育しなさい。そうすれば岩なるキリスト・イエスの上に築かれた教会が建てられるようになる。

働きは真の単純さのうちに勧められなければならない。神は「わたしはあなたへの励ましの言葉がある」と言われる。主は、諸々の大都市にバアルにひざをかがめない多くの尊い魂を、また知らずにバアルを拝んできた人々を持っておられる。キリストを道として、真理として、命としてみることができるように、これらの人々に真理の光が照らされなければならない。

謙遜のうちにあなたの働きを進めなさい。決してキリストの福音の単純さを越えて上ってはならない。見せびらかしの技能によってではなく、罪を許される贖い主、キリストを掲げることによって、あなたは魂の獲得における成功を見るようになる。あなたが謙遜と心の低さのうちに働くとき、このお方はご自身をあなたに表して下さる。（教会への証 9 巻 141, 142）

ああ、あなたがペンテコステの日の後の弟子たちのように、出て行くことができるように、そうすれば、あなたの証は生きた響きとなり、魂が神に改心するようになる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 3 月 11 日）

12月27日

厳粛な力強いメッセージ

「だから、あなたがたが暗やみで言ったことは、なんでもみな明るみで聞かれ、密室で耳にささやいたことは、屋根の上で言いひろめられるであろう。そこでわたしの友であるあなたがたに言うが、からだを殺しても、そのあとでそれ以上なにもできない者どもを恐れるな。恐るべき者がだれであるか、教えてあげよう。殺したあとで、更に地獄に投げ込む権威のあるかたを恐れなさい。そうだ、あなたがたに言っておくが、そのかたを恐れなさい。」（ルカ 12:3–5）

メッセージを広めることに反対する断固とした努力がなされるであろうが、わたしたちは模範であられるイエスが、落胆することもくじけることもなかったことを覚えていなければならない。このお方の働き方が、わたしたちの働き方でなければならない。このお方はためらうことも、小言を言われることもなかったが、神から遣わされた教師として、人に権威をもってお教えになった（ホーム・ミッショナリー 1896年 8月 1日）

大都市における働きは、わざとらしい演技のような方法ではなく、キリストの方法に従ってなされなければならない。神に栄光を帰すのは、わざとらしい演技ではなく、キリストの愛における真理の提示である。

天の方法よりもむしろ世の方法に従った前置きによって、真理の尊厳や印象を奪ってはならない。あなたの聴衆に、集会を開いているのは彼らの感覚を音楽や他のことで魅了するためではなく、真理をその厳粛さのうちに説くためであることを理解させなさい。それは真理が彼らに警告としてのぞみ、自己放縦という死のような眠りから目覚めさせるためである。鋭いもろ刃のつるぎのように、道を切り開くのは、率直な真理である。とがと罪のうちに死んでいる者たちを目覚めさせるのは、これである。

男女を偶像礼拝と自己放縦から救うためにご自分の命をお与えになったお方は、他の人々に福音を提示する働きに取りかかるすべての人が従うべき模範を残された。この時代のための神の僕たちは、宣布すべき最も厳粛な真理を与えられてきた。そして彼らの行動と方法と計画は、自分たちのメッセージの重要性に比例したものでなければならない。もしあなたがキリストの方法でみ言葉を提示するならば、あなたの聴衆は、あなたの教える真理に深い感銘を受ける。彼らに、これこそ生ける神のみ言葉であるということを確信させる。（教会への証 9 巻 142, 143）

12月28日

世界的な範囲

「主なるわたしは正義をもってあなたを召した。わたしはあなたの手をとり、あなたを守った。わたしはあなたを民の契約とし、もろもろの国びとの光として与え、盲人の目を開き、囚人を地下の獄屋から出し、暗きに座する者を獄屋から出させる。」（イザヤ 42:6, 7）

終りの時代における地上の神のみ働きは、キリストがこの世にもたらされた光を反射することである。この光は各時代のはなはだしい闇を散らさなければならない。異教の闇の中にいる男女は、かつて同じような無知の状態にいたが、神のみ言葉の真理の知識を受けた人々によって、手が差し伸べられるべきである。これらの異教国家は、神の知識の中で自分たちに与えられる教えを熱心に受け入れるのである。

神にとって非常に尊いのは、地上におけるご自分のみ働きである。キリストと天使たちはそれを毎瞬見守っておられる。キリストの再臨が近づくにつれ、ますますさらに伝道の働きはわたしたちの努力を要する。神の恵みの新たにする力についてのメッセージは、すべての国々や地方に伝えられ、ついには、世界を取り囲むようになる。印されるようになる人々の数のうちには、あらゆる国民、部族、国語、民族から来た人々がいるであろう。すべての国から、神と小羊のみ座の前に立って、「救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる」と叫ぶ男女が集められることになる（黙示録 7:10）。しかし、この働きがなしとげられる前に、わたしたちはこの自分自身の国で、わたしたちの心に聖霊の働きを経験しなければならない。（両親・教師・生徒への勧告 531, 532）

わたしたちはキリストのうちに宿っているであろうか、そしてこのお方と一つであろうか。わたしたちが担っているメッセージは世界的である。それはあらゆる国民、国語、民族に伝えられなければならない。主はわたしたちのうちだれ一人として、このメッセージの重要性に見合った方法で人々に提示するための力と恵みをお与えにならないうちに、このメッセージを伝えに出て行くようにと要求なさることはない。今日、わたしたちの大問題は、わたしたちがこの厳粛な真理のメッセージを、その重要性に見合った方法で伝えているかである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1885 年 10 月 15 日）

12月29日

忠実な新しい安息日遵守者

「また主に連なり、主に仕え、主の名を愛し、そのしもべとなり、すべて安息日を守って、これを汚さず、わが契約を堅く守る異邦人は――わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、わが祈の家のうちで楽しませる」（イザヤ 56:6, 7）

わたしたちは真理を、すなわちイエスのうちにあるがままの真理全体を知りたいのである。いかなる点においても間違いをいだいているわけにはいかない。自分たちの立場をしっかりと真理の上におく者は、何が苦悩で迫害であるかを知るようになる。現代において、それが何かを経験的に知っている人はほとんどいない。彼らは自分たちが困難な時を経ていると思うが、単に神が自らのうちに根をもっているかを調べようと試しておられるだけである。このお方はエデンでアダムとエバを試されたように、彼らがご自分に従うかどうかを試される。

ある人は「まあ、もし都合が合えば安息日を守りますが、そうでなければ、それに付随する十字架はあまりにも大きすぎます」と言う。パウロは、「わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである」と言っている（ガラテヤ 6:14）。ここに二重の十字架がある。良心的なクリスチャンが聖書の真理の上に自分の立場を取ると、いつでもそれを受け入れることを拒み、世を選ぶ人々がいる。妻が真理の側を選ぶと、夫がそれに反対するかもしれない。ここでただちに試練、すなわち信仰と感情の分離という試練がおとずれる。わたしたちはその妻に、「あなたは夫が安息日を守らないのですから、別れるべきです」と言うのであろうか。まったくそうではない。もし彼女が真理を受け入れる前に忠実な妻であったならば、そしてもしキリストがそのために死なれた人々が自分の友人であることを認めるならば、彼女は真理を受け入れた後にはさらに大きな忠誠をもって、自分の義務を果たそうと努めるのである。こうして可能であれば彼らが光を見るようにと導かれることができるためである。「しかし、信じている妻は、夫の不信仰ゆえに、自分の義務についての確信を明け渡すべきではないのですか」と尋ねる。決してそうではない。キリストが彼女の主であり、主人だからである。彼女は自分に課された高い天からの要求をわきに捨てることはできない。信じる夫や子供の場合も同じである。……もしわたしたちが地上におけるキリストの使命と、何がわたしたちの働きであるかについて正しい観念をもっているなら、わたしたちは少数だからといって、落胆することはない。（ﾋｽﾄﾘｶﾙ・ｽｹｯﾁ 232）

12月30日

わたしたちはこの世代を準備しているであろうか

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」（マタイ 24:14）

「被造物全体が、……共にうめき共に産みの苦しみを続けている」とき（ローマ 8:22）、限りない天父のみ心は同情に痛むのである。この世界は広いラザロの家（注・貧しい病人の収容所）のようなもので、われわれはその悲惨な光景を心に思うことすら苦痛である。その現実の姿をみつめるとき、重荷はあまりに大きいであろう。しかし神はそのすべてを感じておられるのである。神は、罪とその結果を滅ぼすために、最愛のひとり子をあたえ、み子との協力によってこの悲惨な光景を終わらせる能力をわれわれにお与えになっている。〔マタイ 24:14 引用〕。

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」（マルコ 16:15）とは、キリストに従う者にあたえられる命令である。だれでもみな字義通りの伝道者や宣教師になるように要求されているというのではない。それはわれわれがみなキリストと共に働く者となって「よろこびのおとずれ」を同胞に伝えなくてはならないことを意味している。偉い人にも、凡庸な人にも、学問のある者にも無知な者にも、老人にも青年にも、すべての人にこの命令は与えられているのである。

このご命令を念頭におくとき、われわれはむすこや娘たちを、世間並みのりっぱな生活、名目だけのクリスチャンでキリストの犠牲に欠けた生活、真実のキリストから「あなたがたを全く知らない」との宣告をくだされるような生活―そうした生活のために教育すべきであろうか。

幾千幾万の人々がこういう教育をしている。彼らは、一方では福音の精神を拒みながら、子供たちのために福音の恵みを確保しようと考える。しかしそれは不可能である。奉仕においてキリストと交わる特権をしりぞける者はキリストと共に栄光にあずかる資格をあたえる唯一の教育をしりぞけているのである。彼らはこの世において品性に力ととうとさをあたえる教育をしりぞけているのである。子供たちのためにキリストの十字架を拒んだために、彼らを神と人類との敵に引き渡し、気がついたときにはもう手遅れになっている場合が少なくない。彼らには来世のためばかりでなく現世のためにも破滅のらく印がおされる。彼らは誘惑に敗北する。彼らは成長して世の災いとなり、親の悲しみや恥となる。（教育 312, 313）

12月31日

小羊の花嫁の準備が できていなければならない

「わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行い（義）である。」（黙示録19:7, 8）

クリスチャンであると主張する人々は、自分自身の外から、また自分を超えた力を絶えず必要としている。彼らはたえず祈って見張り、神の保護のもとに自分を置く必要がある。さもないと彼らは敵に打ち負かされる。クリスチャンは主人に対する僕のように、また女主人に対するはしためのように、「主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか」と言って、神を見なければならない（使徒行伝9:6 欽定訳）。神の僕は、神に栄光を帰すような方法で、自分の能力を用いなければならない。彼が自分自身を神の御霊の支配に明け渡すとき、彼は新たにされ、キリストのみかたちに変えられる。彼は自分の愛情を神にお捧げし、啓発され、強められ、聖化され、そして世への光の通路となるのである（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1891年2月17日）

救い主がご自分の来臨の約束を与えて下さってから、1800年以上が過ぎた。何世紀も通じて、このお方のみ言葉はこのお方の忠実な人々の心を勇気で満たしてきた。約束はまだ成就しておらず、命の与え主のみ声はまだ眠っている聖徒をその墓から呼び出していない。しかし、それでも、語られた言葉の確かさは少しも減じていない。神はご自分の時に、そのみ言葉を成就して下さる。今ここでだれか弱り果てるのであろうか。わたしたちは永遠の世界に近づくときに、信仰を手放してしまうのであろうか。だれか、都ははるかかなただと言うのであろうか。否、否。もう少しすれば、わたしたちは王をその麗しさのうちに見るようになる。もう少しすれば、このお方はわたしたちの目からすべての涙を拭いとって下さる。もう少しすれば、このお方はわたしたちを「その栄光のまえに傷なき者として」提示し、「喜びのうちに立たせて下さる」（ユダ24）。

全天は、神の報復の日、シオンの解放の日の準備に携わり、わきたっている。遅れた時はほとんど終わろうとしている。長い間、より良い地を求めてきた旅人と寄留者は、ほとんど家に着くばかりである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1913年11月13日）

MEMO

（70 ページの続き）
う。…わたしは地の上に洪水を送って、命の息のある肉なるものを、みな天の下から滅ぼし去る。地にあるものは、みな死に絶えるであろう。」

これはこのいにしえの人を悲しませたことでしょう。彼は自分のまわりにいる人々が非常に悪いことを知っていました。彼らは罰せられる必要がありました。しかし、すべての人や美しい全世界の滅亡というのは、考えるだけで恐ろしいことでした。

しかし、神さまが刑罰のことを語られるときさえ、このお方はすべての人が望みさえすれば逃れることのできる道を教えて下さいました。

「あなたは、いとすぎの木で箱舟を造り…なさい」と言われました。

箱舟！それはつまり浮かぶものという意味です。船ということができるでしょう。しかし、その中に避難所を見出したいと望むすべての人を入れるほど大きなものになるでしょうか？

ノアは神さまが与えて下さった形に驚いたにちがいありません。それは彼が思い描いたような小さい救命ボートではありませんでした。近代の軍艦のように巨大な船舶でした。それはおよそ長さ 180 メートル、幅 30 メートル、高さ 20 メートルで、今日の遠洋定期船とほぼ同じ大きさです。アメリカ合衆国が誇る商船隊は、およそ長さ 300 メートル、幅 30 メートル、船底からてっぺんまでは、およそ 37 メートルです。12 のデッキがあり、船員 1000 名、戦争時には 1 万 4 千人の兵士を乗せることができます。

バナナフルーツケーキ

■材料

バナナ（良く熟したもの）	3 本
ココナッツフレーク	1 カップ
オートミール	1 カップ
ドライクランベリー	お好み
ヒマワリの種	お好み
塩	ひとつまみ

■作り方

1. バナナをフォークでつぶします。
2. 他の材料を全部入れてよく混ぜます。
3. 170 度のオーブンで 20 分焼きます。
4. 串を指して中まで火が通ったことを確認したら、オーブンから取り出して冷まします。

クランベリーの代わりにレーズンでも。生のりんごを入れてもおいしいです。
ベーキングパウダーや糖分を入れなくても楽しめるフルーツケーキです。

教会プログラム (毎週土曜日)



安息日学校：9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教：11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座



※無料聖書通信講座を用意しております。

□福音の宝
□聖所真理

お申込先：sdarm.shomaru@gmail.com

書籍



【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

聖書物語

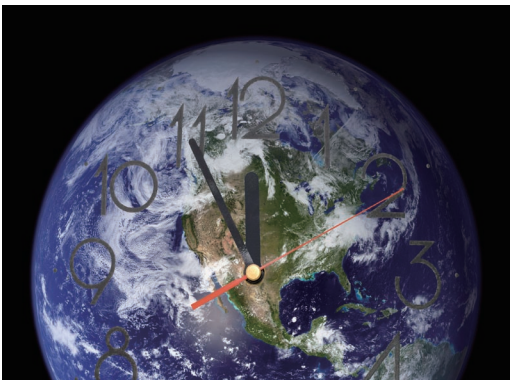
パート3　第2話
神の舟の建設者（I）

神さまはご自分が何をしようとしておられるかを民に告げる人を探して、ノアのことをお考えになりました。彼は 10 代目の父祖で、いまやおよそ 500 歳になっていました。

するどく油断なくまた熱心な人で、当時もっとも賢明な人々の一人でした。なによりも、彼のまわりを囲む悪のただなかで、彼は神と正しいことに対して忠実でした。聖書は、「ノアはその時代の人々の中で正しく、かつ全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。」と記しています。

この点において、彼はエノクのようでした。そしてこれこそ疑いの余地なく、神がそのもっとも重要な任務のために彼を選び、ついには彼とその家族を洪水から救われた理由なのです。

ノアの平常の仕事が何であったのかは告げられていません。彼の親戚の多くと同じように、おそらくは農夫だったかもしれません。しかし、建設者であったかもしれませんし、もしかしたらボートの建設者であったかもしれません。なぜなら、この頃には、たしかに美しい湖や川の上にいろいろな種類のボートがあったに違いないからです。たしかに彼は偉大な設計者であったはずです。さもなければ、箱舟を建設するための神の指示を実行することは決してできなかったことでしょう。



ある日、―それは歴史上、大いなる日のひとつでした―、神はノアのもとへ来て言われました。「彼らは地を暴虐で満たしたから、わたしは彼らを地とともに滅ぼそ

（67 ページに続く）